西ドイツのハンドボール専問週刊誌73年第19号（5月9日発行）はIHF（国際ハンドボール連盟）規則審判委員長エミール・ホルル氏（スイス）からのリポートとして「IHF規則審判委員会」の新組織後における最初の会合の内容を掲載している。この会議は四月末スイス（チューリヒ）で開催されたもので多くの議題が討議されたが、その中で最も重要な部分をひろってみることにする。

◇

2年に1度開催されることになっている「IHF中央規則審判講習会」は、本年9月ブルガリアのソフィアでIOCの会議が開かれる関係上、10月7日から13日の間「ヴァルナ」で開かれるとの延期決定があった。2年前と同様に、今回もIHF傘下の国々の首席審判員が参集することになっている。

規則審判委員会は、この秋に行われる男子世界選手権大会の各予選試合と、ユーゴスラビアで開かれる女子世界選手権大会の全審判員に対して、透徹したX線的観察から彼等を評価し、統制することになるであろう。

ブルガリアでのこの「規則審判講習会」では、競技運営に関する中心的問題として従来から課題となっていた「競技者のプレーそのもの」について特に重点をおく。それはとりもなおさず、理念をはるかに越えた荒いプレーが今やごく普通のものとなり、しかも最近流行的にひろがっている「粗暴反則行為」が激化しつつあり、この反面、ハンドボール競技がルールという確固たる制限領域から次第に後退もしくは遠ざかって行くということである。このことは真に残念ながら確実な競技衰退への道であり、ひとえにこれは弱腰無気力なレフリー（註、電圧の低いレフリーと原語あり）に由来するものであり、このような要素の持主はすみやかに交替させられて、かつそのような資質（註、電池電源と原語あり）は改良されるべきである（註、新しく充電されるべきとあり。すなわち信賞必罰ということか!!）

粗暴な行為防止に 審判員再教育を

ホルル氏（IHF規則審判委員長）西独誌に寄稿

又これと並行して「規則審判委」は、各国の首席審判員とともに、審判員の訓練と再教育についての判断基準を作製し、「監視」と「忠告」により特に念入りに観察指導を行なうものである。我々は「規則審判委」と「各国の首席審判員」と「IHF幹部」との折衝により、ハンドボールの育成発展について新しい息吹きが生れることを心からのぞんでやまない。

そして一九七四年には、「規則審判委」と「トレーナー技術委」の共同推進により、世界選手権大会審判員と各国首席トレーナーのための「合同協議会」の開催を計画している。同時にIHF管轄下のパラトンカップ、ユーゴスラビアカップ、カルパーテンカップ、地中海カップなどの諸大会（ヨーロッパにおける各種国際大会）や地方リーグの実情をも理解し、ルールの等質的理解（見解の統一）により、競技運営が組織的なハンドボール再興のもととなり、それが斯界の新ルネッサンス時代となるようにやって行きたい。

かような展望のもとで、本年の室内シーズンの開幕である24ケ国で行われる男子世界選手権大会予選と、来る12月ユーゴスラビアで開催される女子世界選手権大会の運営にこの成果が成功となってあらわれてほしいものである。

◇

この世界選手権大会開催に関する審判規程は、程なく清書されてただちにIHF事務局から発送されるはこびとなるであろうが、ホルル氏の今回の発言は、日本をはじめ世界のハンドボール界にとって誠に当を得たものといえる。

近年のハンドボールは、ハードなプレーを求めるが故に、時にはそれがラフな展開へとエスカレートしていった。

日本とは比べものにはならぬほど本場・ヨーロッパのハンドボールファンは熱狂的である。刺激的なプレーが、観衆の興奮を誘い、さらにそのムードが選手へはねかえってくるという〝悪循環〟が強められて、ハンドボールはこのままでは、もはや近代スポーツの態(てい)をなさなくなる、という危機感さえ識者は持っていた。

その根源を、ホルル氏はレフェリーの「弱腰にあり」ときめつけ、強硬な指導を打ち出したのは、いかにも氏の性分らしいが、彼は、ミュンヘンオリンピックにおいて現実に、フィンランドのペアを大会途中で〝追放〟しているのだ。

日本に於いても、プレーの粗暴さが目にあまる時がある。プレイヤーの質が落ちたのか、ホルル氏のいうようなレフェリーの弱腰無気力にあるのかはともかく、前掲の一文は斯界にも示唆すること多大であろう。

訳及び解説・光島 磯雄

「ハンドボール」8月号（第111号）目次

【表紙写真】第14回全日本男子実業団選手権、大同×大崎戦、野田（大同）得意のシュート。（撮影・光島磯雄）

全日本男子監督に北川勇喜氏
～女子ナショナルチーム決まる～

男子 まずユーゴ戦参加選手を発表

日本協会は遅れていた今年度男女ナショナルチームの編成を、荒川清美理事長が中心となって進めていたが、7月8日岐阜市で、まず女子24名（GK5、FP19）を決定、つづいて21日東京における月例常務理事会でユーゴ戦（9月1日、東京）に出場する男子17名（GK3、FP14）を決めた。

注目の男子選手とコーチングスタッフについては特別委員会「男子ナショナルチーム選考に関する会議」（委員長＝荒川理事長、委員＝10名、既報）によって協議され、全日本男子監督には北川勇喜氏（36才、全日本コーチ、日本協会技術委員、日体大監督）が決まった。選手はとりあえず、さしせまったユーゴ戦の参加選手を北川新監督が中心となってリストアップ、9月末に改めて「48年度ナショナルチーム」を発表する。

ミュンヘン・オリンピック（47年9月）以降、休止状態にあった日本ハンドボール界の頂点活動は「3年後のモントリオール・オリンピックを意識しながら」（荒川理事長）10ケ月ぶりに活発な動きを示すこととなった。なお、女子は、近く、この24名のなかから今冬12月ユーゴで行われる第5回世界選手権代表（人数未定）が選出される。

初の奥さん選手・池田

女子は本誌前号既報のとおり世界選手権候補として、NHK杯終了時の6月22日大阪で、19選手の名が公けにされており、その名簿に5選手を追加、発表したものである。当初から12月の世界選手権で活躍できる〃即戦力〃という基本方針が示されており、47年度ナショナルが31名であったのに比べ7名減員されているのもそのためであろう。前回（46年12月、オランダ）の世界選手権代表7選手～乗水、小原、米、島田夏、牧野、古佐原、三毛～が健在なのは注目される。

池田（旧姓・蓮見）はナショナルチームで初の「奥さん選手」。日本でも女子の第一線選手がいつまでも元気にコートへ立つようになった。垂水、牧野、小原、米、三毛などにも同ようのことが云える。その情熱と節制に敬意を表したい。

若手では、破壊力抜群といわれる鳥居、貴重な左腕・佐藤が目立ち山下、宮崎、高野らが〃全日本入り〃を初めて果たした。宮崎はこの時点ただ一人のティーンエイジャーである。

学生界からは畑中一人。さびしい。

GK陣は小原というたのもしい存在はあるが北岡（高知ク。前世界選手権代表）、長岡、上杉（ともに東京重機）、佐藤（ブラザー工業）らが次々と第一線を退いてしまったため、荒川理事長、井監督も人選に苦労したようだ。鈴木は唯一の170㎝台、将来を期待される大型GKだ。世界選手権代表選手の決定は、早ければ8月25日の月例常務理事会になる模様。

―― 48年度女子ナショナルチーム ――

▽GK	年令	所属	身長(㎝)
小原名苗	(24,	大洋デパート,	163)
和田祥子	(21,	大崎電気,	167)
大工原和子	(21,	前橋ピジョンズ,	162)
久保徳子	(20,	田村紡,	161)
鈴木はる子	(20,	日本ビクター,	171)

▽FP	年令	所属	身長(㎝)
垂水秀代	(24,	大洋デパート,	163)
米恵美子	(24,	大洋デパート,	161)
島田夏枝	(22,	大洋デパート,	164)
蔵田照美	(22,	大洋デパート,	163)
山下恵美子	(20,	大洋デパート,	160)
古佐原ひろ子	(22,	東京重機工業,	153)
牧野涼子	(24,	東京重機工業,	162)
市川千晴	(22,	東京重機工業,	159)
池田二三恵	(26,	日本ビクター,	167)
谷沢竜子	(20,	日本ビクター,	164)
高野晴子	(20,	日本ビクター,	153)
佐藤あや子	(22,	大崎電気,	167)
岩井悦子	(21,	大崎電気,	157)
鳥居君子	(21,	ブラザー工業,	162)
宮崎桂子	(19,	ブラザー工業,	165)
三毛直子	(23,	田村紡,	164)
木村正子	(22,	日立栃木,	159)
嶋田ひろみ	(22,	全千葉,	153)
畑中多恵子	(21,	東京教大4年,	157)

「日本戦法の強調」を基本思想に 全日本男子

男子人事は「選考会議」（7月21日、東京、10委員出席）で、懸案のコーチングスタッフ推せんと、全日本選手選考の二手に分かれ作業を進めた。

その結果、全日本監督に、ミュンヘン・オリンピック直前までコーチングスタッフに名を連ねていた北川勇喜氏を推し、他のコーチングスタッフのノミネートは北川新監督に一任した。

選手については、荒川理事長（選考会議委員長）が、①目前のユーゴ戦、②来春の世界選手権（予選）、③3年後のモントリオールの三つを結ぶ一つの線を打ち出して欲しいとしたため、とりあえずユーゴ戦の全日本を編成、9月中に「昭和48年度ナショナル」を北川監督が中心となって選びなおすことに決めた。

3時間近い選考の末「ユーゴ戦用全日本」は別掲のとおり出揃ったが、試合日まで一カ月余りという時点のため、〃既成選手〃が主体で、若返りはおあずけのかたち。

しかし、史上初めて190㎝台の蒲生（中大1年）や、夏目（中京大4年）、中村（大阪体大4年）、GK斎藤（日体大2年）らスケールの大きい若手が並んで新鮮さは充分である。

「選考会議」は、このメンバーも「48年度ナショナル」と呼びたい意向を示したが、常務理事会ではユーゴ戦後、入れ替えを行うふくみから、単に「ナショナル・チーム」という呼称のみにとどめるべきだ、とする意見が支配的で、その考えにまとまった。

北川監督の任期については、常務理事会でも、無期限論、モントリオールまでなどさまざまな意見が出された。荒川理事長は『長期的な展望に立って頂点強化を推進することは当然だが、この時点では〃人〃よりも今後いかに日本のハンドボールは進むべきかの〃基本思想〃確立を優先させたい』と

述べ、具体的施策として『よりいっそう日本人の個性・機能を活かした日本特有の戦術を開発させる』を明きらかにした。

各常務理事も、基本思想の長期化に踏み切る第1段階の意味でこの発言を了承、来春の第9回世界選手権終了で一区切りつけることとなった。

北川監督は、ただちにコーチングスタッフの編成にとりかかり、8月初旬に発表のうえ、ユーゴ戦に備えた強化合宿（日時、場所未定）へ入る予定。なお、特別委員会「男子ナショナルチーム選考に関する会議」はこの日で解散、近く県案の強化委員会が人選される。

◇

北川監督の誕生、新・全日本編成への足固め。二つの〃人事〃で立ち遅れていた男子の頂点強化は再びエンジンがかかったが、今回いちばん注目されるのは、荒川理事長が〃日本協会の頂点強化基本思想として「日本独自の戦法にみがきをかけること」を打ち出した点である。攻防両面のスピードプレー、クィックプレーを基調とした〃日本戦法〃こそ、世界雄飛へ唯一の道としたこの考えは、今に始ったものではないが、荒川理事長が改めて強調したのは、ミュンヘン大会をつぶさに観て「日本戦法を成就すれば世界制覇が可能」と確信したからであろう。

もう一つの狙いは、監督個人の考えでナショナルチームが方向づけされるのではなく、日本協会の技術思想に合った監督を選ぶというシステムの確立である。

監督は定められた範囲のなかで個性を発揮するわけで、荒川理事長は、この〃定められた範囲〃こそ強化計画のベースであり、それなくして長期展望は成立しないとしている。

ナショナルチームの思想を近い将来は日本ハンドボール界の指導大系へつながせるという理想にも一歩近づいたといえよう。

対ユーゴ・全日本男子代表

	氏名	所属	cm
▽GK			
○	木田　洋	大阪イーグルス	179
○	下里　敏彦	大崎電気	184
	斎藤将一郎	日体大	186
▽FP			
○	野田　清	大同製鋼	169
	藤中　憲二	大同製鋼	179
○	中井　武二	大同製鋼	180
○	新実　俊夫	本田技研	180
	佐藤　要二	本田技研	182
○	木野　実	湧永薬品	182
○	飯田　誠行	大崎電気	187
○	早川　清孝	大阪イーグルス	180
○	氷海　正行	千葉教員	180
	大江　隆夫	三菱レ大竹	170
	中村　博之	大阪体大	179
	夏目　真治	中京大	181
	菊池　悟	早稲田大	186
	蒲生　晴明	中央大	192

○印ミュンヘンオリンピック代表

ユーゴ・シリーズ

大崎電気は盛岡で対戦

全日本は9月1日東京で

ミュンヘン・オリンピックのゴールドメダルチーム・ユーゴスラビア来日のニュースは、内外各地で大きな反響を呼び、7月10日から日本協会で売り出された第1戦（9月1日、対全日本、東京体育館）の入場券〜一般七〇〇円、高校・中学生三〇〇円、当日売一〇〇円増〜の人気も上々である。

来日も8月29日午後9時15分羽田着のBOAC（英国海外航空）910便に決まり、日本協会では、メンバーの到着を待つばかりとなった。

なお、第3戦の大崎電気戦は9月4日夜、盛岡市営体育館で行われることに変更された。

○……試合日程……○

▽第1戦　9月1日15時30分　対全日本（東京体育館）

▽第2戦　9月2日14時　対三景（東京体育館）

▽第3戦　9月4日18時　対大崎電気（盛岡市営体育館）

▽第4戦　9月6日18時　対大同製鋼（愛知県体育館）

▽第5戦　9月8日18時　対湧永薬品（大阪市中央体育館）

（注）時間はいずれも予定。日本協会では西日本地区で「全日本」との対戦を一試合追加する計画を進めているが本誌締切日までには未確定。

イスラエルで49年2月開催が決定

世界男子予選

IHF（国際ハンドボール連盟）は6月29日付で、日本、イスラエル両協会に対し、来年2月の第9回世界男子選手権アジア予選の日本対イスラエル戦（2試合）を、イスラエルで49年2月22日までに実施するように通達してきた。

これは、日本、イスラエル両協会が、渡辺和美IHFアジア選出理事（日本協会副会長）を通じ、IHFに対し「アジア地域の地理的特殊性からホーム・アンド・アウェイではなく一国で2試合を行いたい。49年1月15日までと規定されていた予選期限を本大会（49年2月28日〜3月10日・東ドイツ）に近づけたい」旨、要請していたことへの回答である。

日本協会は、この通達により、本誌既報のとおり同予選のイスラエル開催が決定したとみている。

Osaki

タイムスイッチ

TYシリーズ

24時間では足りないあなたに 1日＝72時間

大崎タイムスイッチならそれが可能です。毎日、毎週、毎月、定時刻に自動的にスイッチを〈入・切〉するあらゆる設備機器や年間の日没・日出時刻に応じ、自動的に照明を〈入・切〉する場合に最適です。

大崎電氣工業株式會社

〒141 品川区東五反田2丁目2番7号 TEL.03 (443) 7171番

日本協会は、9月中旬に来日する西ドイツ女子「ラインハウゼン・オリンピック・スポーツクラブ」（OSC・ラインハウゼン）の日程などを後掲のように確定した。

来日メンバーは、西ドイツナショナルのゲルテン、チェコナショナルにいたクセローワ、オランダナショナルのベテラン・リートホーベンらが中心で、このほか1m80のコルテ、唯一人の10代シュスターらが注目される。年令は30代5人、25才以上6人、同以下5人と高い。

OSC・ラインハウゼンは西ドイツニーデルハイン地域1部リーグに所属、今シーズン（47年10月～48年3月）は16戦11勝4敗1分で優勝、他の4地域の1部リーグ優勝チームを集めた「対抗選手権」では2勝1分で2位、惜しくも西ドイツ選手権への出場権は得られなかったが、西ドイツ屈指の名門クラブにふさわしい成績だ。

今シーズン西ドイツチャンピオンとなったアイントラクト・ミンデンとの対抗戦では互角の接戦から8－11で敗れている。また昨シーズンにはイスラエル

田村紡戦（9月17日岐阜）追加
OSC・ラインハウゼン

へ遠征、イスラエル・ナショナルを13－9を破る実績を残した。日本では、本誌既報の4試合のほか、9月17日岐阜県民体育館で田村紡との対戦が追加された。

【日程】▽来日 9月13日19時30分日本航空756便（福岡空港）▽第1戦、15日15時30分 大洋デパート（熊本市体育館）▽第2戦 17日18時 田村紡（岐阜県民体育館）▽第3戦 18日18時30分 大崎電気（駒沢屋内球技場）▽第4戦 20日 東京重機工業（駒沢屋内球技場）▽第5戦 未定 日本ビクター（水海道市）▽帰国 24日22時30分日本航空421便（羽田空港）

【来日選手＝予定】▽GK G・ゲルテン、H・メニンク▽FP L・クセローワ、A・コルテR・リートホーベン、D・ベックホルト、A・ヴィーゼ、H・バーテルス、E・ヴィンクラー、M・グラーペン、G・シュスター、U・シュリヴィッツシュ、C・シュテファン、I・ヒール、M・シュトケンブロック、G・ツオルツエッティ ▽監督グラペン（元西独女子監督）

〃〃〃〃〃〃〃

海上自衛隊で指導者講習

海上自衛隊の航空部隊では6月12日から2週間にわたり全国各基地から18名の隊員を下総航空基地（千葉）に集め「指導者講習」を行った。受講者はいずれも各基地を代表する選手経験者で今後チームの監督またはコーチとしての活躍を期待される者。トレーニング既論、運動生理、救急法、基本技術、応用技術の指導法審判法について実施された。指導には三術校体育科教官及び三術校、四空群のハンドボール関係者があたったほか、「指導法」については千葉県協会副会長宮本西嗣氏が一日間、「審判法」については、日本協会審判部長安藤純光氏が二日間指導にあたり受講者全員がD級公認審判員申請にまで達した。

今回の講習は、公認審判員資格者の増員とハンドボール普及のためには正しい審判技術をという関係者の熱意から生れたものであり、五か年計画で各基地にC級一名、D級四～六名の公認審判員を養成してゆこうとするものである。

なお、明年二月の海上自衛隊大会では、隊員のレフェリーを審査して優秀レフェリーを表彰しようという計画も考えられ海上自衛隊の航空部隊におけるハンドボールの普及は長期計画にもとづいて順調に進んでいる。（池上貞男・千葉、航空集団司令部）

全日本学生、男子出場校配分数決まる

全日本学連は6月2日東京で開いた総合役員会で、今秋11月20日から24日まで東京で開く第16回（女子第9回）全日本学生選手権の学連別男子出場校配分数（計32）を次のように確定した。

▽北海道1▽東北2▽関東9▽北信越2▽東海4▽関西7▽中四国2▽九州3▽推せん2（日体＝前年1位、法政＝同2位）

渡辺氏（普及指導部長）技術部長も代行

日本協会は、7月21日の月例常務理事会で、勝繁夫氏辞任により空席となった技術部長の後任について協議、荒川理事長の「当分の間、渡辺慶寿普及指導部長を技術部長代行として兼務させる」提案を了承した。

しかし、審判と並んで日本協会の主柱である技術・普及指導に専任者がいないことは、事業の発展が望めないとする意見も強く、引きつづき人選を進めて、できるだけ早い時期に兼務をはずすよう申し合せた。

大洋デパート、6連覇（通算7度目）の偉業
全日本実業団女子

第14回全日本実業団選手権女子の部は、7月4日から8日まで岐阜市・県民体育館に国内最上位9チームが参加して行われ、予選リーグから勝ちあがった6強による決勝リーグの末、大洋デパート（熊本）がスピード豊かな攻守で5戦全勝、6年連続7度目の優勝を遂げた。女子の同一チームが全国大会で6連勝したのは愛知紡（現在廃部）の全日本総合における記録（昭32～37）と並ぶもの。

日立栃木、田村紡に善戦

▽予選リーグA組

大洋デパート（熊本） 17（11－1、6－2）3 東北ムネカタ（福島）

ブラザー工業（愛知） 21（8－4、12－2）6 東北ムネカタ

大洋デパート 12（7－4、5－1）5 ブラザー工業

（この記録は決勝リーグへ適用）

【順位】①大洋デパート②ブラザー工業＝以上決勝リーグへ③東北ムネカタ

▽同B組

東京重機工業（東京） 21（10－0、11－3）3 扇屋（千葉）

【ブ工】	得		【大洋】	得
井戸田	0	GK	小原	0
山本	0	GK	森山	0
藤浪	0	FP	米	0
鳥居	4	FP	垂水	4
原川	0	FP	島田	2
平	0	FP	山下	1
宮崎	1	FP	蔵田	5
小森	0	FP	加子崎	0
藤井	0	FP	植原	0
鍋島	0	FP	石井	0
国府田	0	FP	篠田	0
鈴木	0	FP	矢田	0

（審・栗山、梅田）

12（0）7MT（0）5

大崎電気（埼玉） 13（4－4、9－2）6 扇屋

東京重機工業 20（10－6、10－7）13 大崎電気

（この記録は決勝リーグへ適用）

【順位】①東京重機工業②大崎電気＝以上決勝リーグへ③扇屋

▽同C組

田村紡（三重） 11（8－2、3－5）7 日立栃木（栃木）

日本ビクター（茨城） 15（5－1、10－2）3 日立栃木

田村紡 13（6－5、7－4）9 日本ビクター

（この記録は決勝リーグへ適用）

【順位】①田村紡②日本ビクター＝以上決勝リーグへ③日立栃木

○……勝ち進んだ6チームはまず順当。しかし、各試合ともなかなか変化に富んだ内容で中堅級のレベルアップを印象づけた。

優勝争いの一つのヤマとみられた大洋×ブラザーは、大洋が立ちあがり巧みに先制点をあげた。ブラザーは鳥居の連続ゴールで食い下ったが、大洋は要所をがっちりと締め、後半6分7－5とせまられたあとも、すぐ蔵田、山下と射ちこんで主導権を守り押し切った。

○……重機×大崎は重機の力が一段上とみられたが大崎は前半、佐藤の好プレーで善戦した。しかし重機は前半15分すぎから好調な攻撃ぶりをみせ、全員むらのない得点で大崎を制した。

田村紡×日本ビクターは、両チームともこの大会をきっかけに全国最上位への復活を狙っているとあり、力のこもった好試合だった。

田村は前半21分6－3としたがビクターは後半1分6－6からリズムにのり、14分には逆に9－7と優位に立った。ところが、このあと得点がパタリと止って田村の反撃を許し、15分から7分間に5失点、せっかくのリードを空しいものにした。田村の終盤における松下らの逆襲は鮮やかだった。

○……注目を集めたのは初登場の日立栃木。木村（日体大出、全日本）を要にまずまずのスタートを切った。特に緒戦の対田村紡は出バナに0－4とされながらじっくり追いこみ、後半は2分から11分までに連続4ゴール、6－8とせまる健斗だった。

社会人ハンドボールになれ切れず、時おり一本調子になるところがあるが、場数（ばかず）を踏めばかなり早い時期に上位陣へとびこんでくるのではなかろうか。

扇屋、東北ムネカタはスピード不足。わずかに扇屋が大崎戦の前半をタイスコアでもちこたえたのが目立った程度であった。次の機会での飛躍を待ちたい。

田村紡、金田の活躍で逆転

▽決勝リーグ

田村紡 10（2－5、8－3）8 ブラザー工業

○……東海で何回も顔を合せ手の内を知りつくしている両者。ブラザーは前半、藤浪を中心によく走り順調に加点した。後半もチャンスを活かし12分には8－4としたのだが、そのあと消極的になったのがたたった。田村紡は15分6－8と反撃の足がかりをつかみ、20分から金田伴のまるで勝利の女神を背負いこんだような連続4得点という大活躍で同点－逆転－ダメ押しの三段とび。みごとな粘り勝ちを演じた。ブラザーはあきらめきれない敗戦だろう。

東京重機工業 10（3－2、7－3）5 日本ビクター

○……重機は苦しい勝利だった。前半はまったく攻撃にスピードがのらず1－3から辛くもタイ。後半5分4－4のあとようやく市川、鈴木のゲットでペースをつかみ、15分以後は古佐原－牧野の全日本コンビで得点を加えビクターを押し切った。

大洋デパート 11（4－1、7－2）3 大崎電気

○……前半6分まで、3－0と大洋がいきなりリード。ところがそのあと13分間両者無得点という風戦。特に大崎は攻撃がちぐはぐで積極性にも欠けた。大洋は後半も立ちあがり3点を加えて楽勝だったが、内容的には不満足だったろう。

東京重機 16（7－5、9－7）12 ブラザー工業

【ブ工】	得		【重機】	得
井戸田	0	GK	三紙	0
山本	0	GK	栢植	0
藤浪	2	FP	牧野	3
鳥居	5	FP	古佐原	3
原川	0	FP	市川	3
平	1	FP	鈴木	2
宮崎	2	FP	生井	1
小森	0	FP	菊地	4
藤井	2	FP	折口	0
鍋島	0	FP	村上	0
国府田	0	FP	岡部	0
鈴木	0	FP	渡辺	0

（審・藤井）

16（0）7MT（1）12

○……ブラザーは3分鳥居のゲットで先行したが、重機は生井がすぐ返し、その後は重機のペースで試合が進んだ。15分2－6と劣勢のブラザーは粘り5分後には1点

歴代優勝チーム

回	優勝チーム
①（昭35）	愛知紡＝認定
②	愛知紡
③	愛知紡
④	レナウン東京
⑤	大崎電気
⑥	大洋デパート
⑦	田村紡
⑧	田村紡
⑨	大洋デパート
⑩	大洋デパート
⑪	大洋デパート
⑫	大洋デパート
⑬	大洋デパート
⑭（昭48）	大洋デパート

差、さらに後半早々にも6—7から同点機をつかんだのだが、重機は菊地の連続ゴールと古佐原で後半9分10—6と一息つき、結果的には、後半開始直後の5分間がヤマとなった。
　ブラザーはセットプレーからの得点を狙いながらパスモーションにスピードがなく、出足のよい重機ディフェンスにカットされ、速攻をうけたのは拙い。

大洋デパート　17（9—4　8—4）8　田村紡

○……この大会、大洋は一気のスパートが奏功しているが、この試合も10分6—2と開く好調。こうなると相手は点差を小刻みに縮める以外に手がなくなる。好機をじっくり活かす大洋は先手の有利を活かして後半15分15—6と大差。あっさり勝負が決まった。

ビクター、後半で勝負

日本ビクター　10（4—4　6—2）6　大崎電気

	【大崎】	得	【日ビ】	得
GK	和田	0	渡辺	0
GK	西村	0	鈴木	0
FP	佐藤	2	池田	2
FP	岩井	3	高野	3
FP	席定	0	加藤	1
FP	長谷川	1	額賀	2
FP	安野	0	谷沢	2
FP	内野	0	滝	0
FP	大場	0	蓮見	0
FP	杉尾	0	阿部	0
FP	永吉	0	川崎	0
FP	深堀	0	丸山	0

（審・鈴木、大橋）

10（0）7MT（0）6

○……前半4度同点から勝負のかかった後半、まずリードを奪ったのはビクター。2分額賀、4分池田で6—4、大崎も13分佐藤が返し予断を許さなかったが、15分すぎビクターは速攻を実らせて2点をあげさらに20分すぎにも2点と巧みに点差を拡げ、大崎を振り切った。大崎は攻撃の波が激しすぎ、連続得点を奪えぬのがひびいた。

決勝リーグ勝敗表

		洋	重	田	ビ	ブ	崎	P
①	大洋デ	…	○	○	○	(○)	○	10
②	東京重	●	…	○	○	○	(○)	8
③	田村紡	●	●	…	(○)	○	○	6
④	日本ビ	●	●	(●)	…	○	○	4
⑤	ブラザ	(●)	●	●	●	…	○	2
⑥	大崎電	●	(●)	●	●	●	…	0

Pはポイント（勝ち点）。（　）内は予選の勝敗

ブラザー工業　7（4—1　3—4）5　大崎電気

○……ブラザーは前半、速攻のパスワークが冴え、鳥居、宮崎のコンビネーションプレーなどで着々加点、大崎は後半6分2点差まで詰めたが、ブラザーは7、13分宮崎のゴールでがっちり先行の手をゆるめず17分にも1点差とされたが直後の7MTを鳥居が決めて逃げ切った。

大洋、苦しい逃げ切り

大洋デパート　9（5—3　4—4）7　日本ビクター

○……大洋の体力勝ち。ビクターは、前半0—1のあと8分7MT（谷沢）でタイ、さらに14分池田で逆転したのだが、直後、2本の7MTを課せられ2—3、18分再び3—3と追いつきながら、22分島田に割られ、タイム直前、三たび7MTで傷口を拡げてしまった。
　後半もビクターは健斗、15分5—6としたのだが、16分垂水、21分島田と勝負強い二人にしてやられ20分すぎ懸命にあげた2点も、24分10秒、致命的な7MTを垂水に決められた。
　大洋はビクターに粘りつかれながら巧みに7MTを誘いこむなどして得点機をつかみ、ここぞと思った時の速攻も決まって貫録を示した。

	【日ビ】	得	【大洋】	得
GK	渡辺	0	小原	0
GK	鈴木	0	森山	0
FP	額賀	1	米	0
FP	谷沢	3	加子崎	0
FP	滝	0	島田	2
FP	蓮見	0	蔵田	2
FP	阿部	0	垂水	5
FP	池田	3	石井	0
FP	高野	0	山下	0
FP	川崎	0	矢田	0
FP	加藤	0	植原	0
FP	丸山	0	篠田	0

9（4）7MT（2）7

東京重機　13（6—3　7—7）10　田村紡

	【田村】	得	【重機】	得
GK	久保	0	三紙	0
GK	岡	0	柘植	0
FP	沖	0	牧野	6
FP	辻	2	古佐原	1
FP	三毛	0	市川	1
FP	松下	3	鈴木	2
FP	横山	2	生井	0
FP	金田伴	2	菊地	2
FP	金田孝	0	折口	1
FP	鈴木	0	村上	0
FP	落合	0	岡部	0
FP	和久井	1	渡辺	0

（審・梅田、栗山）

3（1）7MT（1）10
1

○……田村は立ちあがり押し気味だったが、7MTの失敗などでリードを奪えず、エース牧野を中心に着実にチャンスを活かした重機が前半の主導権を握った。
　後半はまったく互角の展開で田村紡は反撃機を狙ったが16分8—10としたのがやっと、重機は前半の3点差が余裕となり、逆に田村紡は前半の拙攻に悔いを残すことになった。

日本ビクター　12（8—1　4—6）7　ブラザー工業

○……ブラザーは開始42秒宮崎で先制したが、これが前半唯一の得点、この貧攻の間にビクターは谷沢、池田らがシュートをはなち大差をつけた。後半、それも15分を過ぎてから盛りかえしたが大勢をくつがえすには程遠かった。

田村紡　16（9—2　7—5）7　大崎電気

	【大崎】	得	【田村】	得
GK	和田	0	久保	0
GK	西村	0	岡	0
FP	内野	0	三毛	4
FP	安野	0	松下	5
FP	長谷川	0	横山	1
FP	席定	0	和久井	0
FP	岩井	4	金田伴	2
FP	佐藤	3	辻	3
FP	深堀	0	沖	0
FP	永吉	0	落合	0
FP	杉尾	0	鈴木	1
FP	大場	0	金田孝	0

（審・大橋、吉田）

16（2）7MT（0）7

○……田村は前半速攻がよく決まり、岩井に頼る大崎を引きはなした。
　後半になって大崎は反撃の気配をみせたが、田村は主導権をがっちり握って放さず7分11—5から辻、松下の好シュートで一気に5点を加え大勢を決めた。

大洋、先制攻撃が奏功

大洋デパート　13（7—3　6—4）7　東京重機工業

	【重機】	得	【大洋】	得
GK	三紙	0	小原	0
GK	柘植	0	森山	0
FP	牧野	2	垂水	5
FP	古佐原	1	米	0
FP	市川	0	加子崎	2
FP	鈴木	1	島田	3
FP	生井	0	蔵田	0
FP	菊地	2	植原	0
FP	折口	1	石井	0
FP	村上	0	篠田	1
FP	岡部	0	山下	2
FP	渡辺	0	矢田	0

13（2）7MT（1）7

○……重機は1分牧野、大洋は2分10秒垂水と両エースの得点で互角のすべり出し。
　しかしペースはすぐ大洋のものとなった。2週間前のNHK杯（大阪）で大差をつけた自信が大洋の動きを滑らかにしている感じ、7分島田で勝ち越し、さらに10分山下のゲットをはさんで2本の7MTを垂水が決め5—1と優位に立った。
　重機は慎重なあまり、動きが固く、パス、シュートともタイミングがずれ、14分7MT（牧野）でやっと2点目をあげる貧攻。
○……後半、重機の挽回が期待されたが、2分までにあっさり2点を失って9—3。勝負はここで決まった、といってもよい。
　大洋は垂水、米の好リードで若手がよく動き、GK小原のプレーも相変らず冴えており、チーム全

体のバランスが実にいい。昨冬の全日本総合でいちど追い越した重機だが、どうも抜きかえされてしまったようだ。

7位に日立栃木くいこむ

▽7〜9位決定リーグ

日立栃木 11（8－2、3－6）8 東北ムネカタ
日立栃木 11（8－2、3－6）8 扇屋
東北ムネカタ 8（4－1、4－1）2 扇屋

【順位】⑦日立製作所栃木⑧東北ムネカタ⑨扇屋

得	【日立】		【東北】	得
0	粂谷	GK	中村	0
0	高橋	GK	熱海	0
0	木村	FP	小泉	0
1	小林	FP	伊賀	6
1	小根沢	FP	遠藤	0
0	桜庭	FP	有藤	0
0	土屋	FP	後賀	2
0	鈴木幸	FP	細谷	0
0	富田川	FP	鈴木	0
4	山井	FP	小山田	0
3	鈴木昌	FP	清水	0
2	鈴井	FP	高谷	0
11	（1）	7MT	（1）	8

（審・吉田 吉川）

○……7位決定戦とは云え3チームにとってここはどうしても勝ち抜きたいところ。各試合とも接戦となったが、デビューしたての日立栃木が木村、鈴井、山田らの活躍で〝先輩チーム〟を倒したのは賞してよいだろう。

東北ムネカタは伊賀への依存度が相変らず強く、全体にもう一つ速いテンポが欲しい。

扇屋はフォーメーションプレーにみるべきものがあったが、かんじんのシュート力に甘さが残っている。

新人の進出目立つ 優秀選手

全日本実連は大会終了後、この大会の優秀選手12名を次のとおり発表した。これまでのベストセブンから1クルー（12名）に拡大したこともあり初受賞の新人の進出が目立つ。垂水は第8回以来7年連続の表彰という快記録だ。○内数字は受賞回数。

▽GK（2名）
小原 名苗（大洋デパート）⑤
三紙 和枝（東京重機工業）初

▽FP（10名）
垂水 秀代（大洋デパート）⑦
蔵田 照美（大洋デパート）初
牧野 涼子（東京重機工業）④
古佐原ひろ子（東京重機工業）②
三毛 直子（田村紡）②
松下 仁美（田村紡）初
谷沢 竜子（日本ビクター）初
額賀美恵子（日本ビクター）初
岩井 悦子（大崎電気）初
宮崎 桂子（ブラザー工業）初

▽得点王 垂水秀代 24（6試合）

男子は大同製鋼が2連勝
健斗目立った本田技研鈴鹿

第14回全日本実業団選手権男子の部は7月11日から15日まで熊本市体育館に国内ハンドボール界を代表するベストエイトが参加して行われた。

4チームづつ2組による予選リーグで、4強を選び、決勝リーグが争われたが、今シーズン国内タイトル独占を目ざす大同製鋼（愛知）に対し、各チームは斗志をもやして挑み、予想どおりの好内容となった。

しかし、大同は強豪の並んだ予選A組で三景（東京）、本田技研（三重）の粘りをふり払い、決勝リーグでもNHK杯(6月、大阪)につづいて全日本チャンピォン・湧永薬品（大阪）を降しトップに立った。

大同を追ったのは進境いちぢるしい本田で、決勝に進むや大崎電気（埼玉）、湧永薬品を連破する好調、最終戦・大同×大崎戦の結果いかんでは優勝を手にできる健斗をみせた。

注目のうちに行われた大同×大崎戦は、大崎が前半チャンスを巧く活かしてリードを奪い、波乱ぶくみだったが、大同は必死の反撃を実らせ15－15の引き分けに持ちこみ首位を確保、本田の野望をくじいた。

大同製鋼は2連勝。なお大同が昨年12月10日の全日本総合(東京)の対大崎電気戦以来つづけていた公式戦連勝記録は「36」でストップ（注・不敗記録は今後もつづく）。本田技研が全日本レベルの大会で2位となったのは昭和36年創部以来初めてのこと。

◇決勝リーグ記録 大同製鋼20－8本田技研、大崎電気14－13湧永薬品、大同製鋼25－16湧永薬品、本田技研15－14大崎電気、本田技研16－14湧永薬品、大同製鋼15－15大崎電気（引き分け）

◇最終順位①大同製鋼②本田技研鈴鹿③大崎電気④湧永薬品⑤三景⑥三菱レイヨン大竹（広島）⑦日新製鋼呉（広島）⑧セントラル自動車（神奈川）

この大会の詳報は次号に掲載します

豊田工機、得失点差で首位
全日本実連会長杯争奪リーグ

今年から併設された女子実業団の〝2部リーグ〟。参加3チームはいずれも企業チームとはいえクラブ的性格が濃い。こうした底辺での活動のうちに上位進出への意欲を燃やすようになれば、斯界の厚味はいっそう増すだろう。（7月6、7日＝大垣市スポーツセンター、8日＝岐阜県民体育館）

日本耐酸壜工業（岐阜） 7（4－0、3－5）5 豊田工機（愛知）
日本耐酸壜工業 8（3－2、5－3）5 伏原紡織（愛知）
豊田工機 8（3－3、5－4）7 伏原紡織
〜以上第1次リーグ〜
豊田工機 6（3－2、3－0）2 日本耐酸壜工業
日本耐酸壜工業 6（4－1、2－1）2 伏原紡織
豊田工機 15（8－0、7－0）0 伏原紡織
〜以上第2次リーグ〜

【順位】①豊田工機勝ち点1.5（3勝1敗、得失点差18）②日本耐酸壜工業勝ち点1.5（3勝1敗、得失点差5）③伏原紡織勝ち点0（4敗）

（注）参加を予定された自衛隊朝霞（東京）は勤務の都合で棄権

▼優秀選手▽GK 今村好美（豊田工機）▽FP 藤田ふさえ、都築ひろみ(以上豊田工機)、末光ヤヨミ、島田美代子（以上伏原紡）岡田寿美子、水谷恵子（以上日本耐酸壜）

スタディオン 来春訪日望む

デンマーク・男子チャンピオンチーム「スタディオン・コペンハーゲン」は来年の4月上旬、日本へ遠征、4〜6試合したい旨、日本協会へ伝えて来た。日本協会は最近3年間、ヨーロッパから単独チームを招いて新シーズンの開幕を飾っており、受け入れを検討する。

日韓学生交流報告②

世代の交替期・韓国協会

団長　藤松　博

日韓学生ハンドボール大会も、学連会長西敏郎氏及び韓国ハンド協会の肝煎りで始められてから早いもので、男子第七回、女子第二回と回を重ねて参りました。其の間韓国協会の前専務理事、朴應詰先生、副会長洪淳泰先生などの努力によりまして、今年など完全に軌道にのり順調に運営されるに至りました。今回の遠征は、日本学生連盟の西会長の突然の病気、入院の為に国の編成特に役員スタッフの編成に時間がかかり、韓国協会の準備に遅滞をもたらした点に学連として深くおわびを申し上げたいと思います。

最も近い外国、国民感情、生活様式とも非常に日本に近い韓国との国際試合は、実業団チーム、大学学生チーム、高校男子、女子チームなど国際交流は年を追うに従って盛んになって来ています。そうした動きは、おそらくこれからも増々各部門について充実してゆくものと信じます。

私も、一昨年と今年の二回にわたり学生チームと一緒に韓国を訪問し、心あたたまる協会関係者の歓迎をうけ、アマチュアスポーツの国際交流の持つ意味に深い感銘を受けて帰って参りました。

東洋人の客に対する歓待は西洋のそれとは多少異り、韓国の人達は、100％の努力を傾けて日本チームを歓待して下さる。これに対して訪問するチームは、どう対応したら礼を失しないであろうか。私は出発にあたり、選手、役員を前にして韓国訪問者の心構えについて前回の唯一の経験者として注意をした——『礼儀と作法とゆう言葉がある。これは類似語の様にうけとられるが実は、その持つ意味が似ていても根源が異る。礼儀とは相手の立場に立って礼節をつくすことであり、作法とは礼節の型式をふむことである。即ち作法にかなうことは相手の生活様式、思考様式を十分に知りつくした上ではじめて、成り立つものであり、その準備の無い場合は多くの場合礼節をつくしたつもりが相手に対する理解の浅さから、非礼につながるケースが多い。その意味から君達は自分達のメジャーで相手を計らず、相手の立場に立って、相手の真意をくむ様に努力しなさい。その為の具体的な方法としては、裸になってあらゆる先入感を捨てて、一個のハンドボール愛好の志として相手に接する様にすれば必らず相手に真意を伝えることが出来る』。

韓国を訪れて、ときどき耳にする話に誤解を含めた日本人に対する不信感の話題がある。例えば、レフェリーに対してもしかり、国際試合の大会運営に対してもそうだ。その原因について詳しく聞き、不満に耳を傾けると、そのほとんどが、日韓両国の組織構成上の相異から来る。認識の不足、言語の不自由から来るコミュニケーションの不足などが、その主たる原因の様に思われた。

韓国協会も世代の交替の時期に来ている。40才以上の年令の協会構成員は、数える程しか居ない。日本語だけでは絶対に通用しない世代に移りつつある。この機に当り日本協会の関係者も、今迄の様に言葉の自由であった気軽さを整理しヨーロッパ並の対外国として、国際レベルで事務処理をする必要を痛感した。つい気楽に国際電話で日本語で通じたから、それで万事処理できたと考えてはいけない様に思う。今回の遠征についても二・三こうした方式による手違い、誤解のあった事を考えても、反省させられた。

その意味からも、今回学連が審判員として、宇津野年一氏を滞同した事は、非常に意味があった。実際にペァーを組んで審判し、解釈上の理解点に達する迄デスカッションをする。これは、国際ルールの文章の解釈上の相違点を、実践を通して論じ合う、了解点に倒達するなどあらゆる面で理解を深めるのに役立った様に思われた、出来る限りこの様な審判員の交流を盛んにすることこそ、両国ハンドボールの発展と理解、ひいては真の意味での親善に役立つ最も近道であると確信している。

最後にすでに韓国を訪問された諸チームの関係者に呼び掛けたい。今回の役員改選で、総務理事になられた許享茂氏を一度日本に招待しようではありませんか。滞在中親身にも及ばない世話をしていただき、最も良き日本チームの理解者としてご努力していただいた氏に対し（おそらく学連チームだけでは無く、多くの訪韓チームがそうしていただいたものだと思います）韓国の国内事情でその意志があっても、仲々困難な様です。機会をみつけて、許氏を日本に招待する様な努力を提案して結びとする（日本協会理事、全日本学連理事、中京大教授）

審判に関する問題

宇津野　年一

昭和48年日韓学生親善試合は、ソウルで男女各4試合(屋外)、全州で男子1試合(室内)、釜山で女子1試合（室内）が行なわれ、既報の成績でありました。私は審判視察を任として同行しましたが、結果は女子2試合、男子1試合の審判を務めました。以下審判問題について、概略のご報告をいたします。

日韓交流は、学生を始め、高校、実業団など、年ごとに頻繁になっておりますが、いつも口にされますことが審判問題であります。このたびの私の任は、日本の現状説明と韓国の実情を視察し、両国の競技規則の見解および判定の相違点を確認し、歩み寄ることが主たるものであるように考えておりました。それだけに私としては、任務の重且大であることを痛感した次第であります。その内容は、第一点、日本の現状説明は、6月6日ソウル到着の夜、両国関係者の打合せ会の席で、韓国側の要請により、私が昭和48年度の日本の競技規則の改正点を逐一説明し、韓国側の見解を伺った結果は、相違点は全くなく見解の統一を確認することができました。

第二点、韓国の実情は、今回予定されていた10試合中の試合と、前座試合の中・高校の男女とママさんの試合を、私が観戦した限りでは、韓国審判員の判定が、日本の現状と大差ないことを再確認することができました。結論的には以上のようでありますが、審判技術の優劣は、日本国内でもみられますように、韓国審判員にもその差は明瞭でありまして、競技規則の見解の統一が確認されても、現場における判定についての日本の傾向と韓向には、多少の違いを感じましたので、この点についてまとめてみましょう。

判定について、韓国関係者の言では、「ゲームの面白さを重視する韓国と、ルールに忠実で威圧感のある日本との違いが、判定に現われるのではないか」、ということであり、このことが両国の傾向の相違、特に、韓国側がすべてにアドバンテージを長くとっている点に現われていたように感じました。この点全競技終了後に行なわれた反省会で、日韓両国の傾向について意見を求められた際、私は

① 大きな違いはないと思う。

② アドバンテージが長いようである。

③ 警告、退場のゼスチャーと審判員の記録などについては、世界の傾向を採用し、統一した方がよいのではないか。

などの3点を解答いたしました。

今回私に与えられました任務に対して、十分なご報告とは言えませんが、この種の件はレポートしないといろ韓国側の言葉と字数割限の関係もありまして、細部については、協会審判部長宛ご報告いたします。

最後に、今後の日韓交流に際しましては、ぜひ1名かワンペアーの審判員を交換し、両国の審判問題をよりよい方向に解決して行く努力のなされますことを希望いたします。（全日本学連審判部長）

韓国男子学生界の現状

北川　勇喜
（男子コーチ）

韓国の大学ハンドボールチームは、男子1部5校（成均館、慶熙、円光、慶北、公洲師範大）同2部（ソウル、韓国外語、弘益、延世、高麗、陸軍士官学校、仁川体育大学）の計12校が主体であり、この内今回対戦した3校が実力上位で伯仲しているとのことである。対戦した感じでは、姜コーチ（ミュンヘンオリンピック・アジア地区予選時の監督）の率いる成均館大学が日本でお馴染みの車・金両選手を擁していて、攻防共にバランスのとれた好チームであり、1敗を喫した慶熙大はディフェンスの要であるGKの黄享求がよく、これとFPの金栄会を中心としてよくまとまったチームで、この両チームは日本のインカレのベストフォアに匹敵するものと思われる強力なチームであった。

五輪予選時に当時高校生で大活躍した車、金の二人が予想に違わず着実な成長を見せており、特に車のディフェンスブラインドからのシュートとカットイン後の崩れた態勢から対角線上にスナップを利かして打つシュート、金選手の角度のない右のコーナーから飛び込んで放つ滞空時間の長い「ノダ・シュート」には目を見張らせるものがあった。更に慶熙の金選手はクイックで然も高い位置からのジャンプシュートをみせ、2年生でありながら体格に恵まれファイトとカンの良いGKの黄選手も素晴しく、このまま成長すればおそらくモントリオールのオリンピック予選時には、彼等が主力となって活躍し、我々の強敵になることは間違いないと思われる。

戦法的には、攻撃はセットオフェンスが主体であり、得点効率の良いポストプレーを多用する。5年前の遠征時あるいはその後の対戦で苦しめられたスカイプレーは、今回ほとんど見られなかった。

ディフェンスは、五・一と四・二システムの併用で、ボールキープマンへのチェックが激しい。おそらく、攻防の戦法共に、オリンピック予選の強化合宿で招いた西ドイツのコーチの影響が強いものと考えられる。

ゲームのデーターを分析してみると、日本のシュート成功率は84／206＝〇・四〇八、韓国は80／183＝〇・四三七で韓国の方が確率よく、この中でも金成憲の〇・五四二、金栄会の〇・五二四、車の〇・四六七が光り、日本の上位3選手菊地〇・四六三、中村〇・四五一、夏目の〇・四五〇を上回っている。

反則では、身体接触が104―88でミスプレーに於いても66―49と共に日本が多くその上シュート確率も悪かった日本が3勝1敗1分けと勝越した原因は、パスカット、シュートカット、リバウンドボールの獲得及びシュート阻止がやや上回った為であり、この点から両国を比較した場合、日本が防御力に一日の長ありと判断することが出来る。最後に、今回の遠征で特に感じたことは、過去七回の交流でいまや胸を貸す段階からしのぎをけずる段階へと進展していると云う事実であった、このように大きく成長した彼等と共にヨーロッパスタイルの模倣から創造へと発展させ一日も早く、アジア人の心情に根ざし、アジア人の身体的特性を生み出さなければならないと強く心に期した。そして、それがとりもなおさずアジアでの激しいせり合いとなり、即、世界制覇の道へと続くものであることを信じる、と同時にその日の早からんことを願って止まない。

（日体大監督）

日韓女子の技術比較

藤原　侑（女子コーチ）

私は今回の遠征にコーチ(女子)として三つの目的を持って渡航した。一つには選手達の健康管理の向上を計ること。一つには親善、一つには交流により技術の向上を企ること。後者の二つは目に見えない迄も多大なる貢献をして又効果があったことと信じる。健康管理にかけては怪我は下痢という状態があり悩まされた。

全般的な韓国ティームの印象は個々のティームの中に一名～二名は優秀な選手が在り選抜した選手を集め練習を重ねると強剛ティームになることとは目に見えるところである。攻撃法はゴールエリア前を走る横のゆさぶりに縦のステップからのミドル或はロングシュートでの改め、男子選手には多く見られたクイックシュートだが、女子選手は逆にワンテンポ遅れたタイミングでのシューで最後にスナップを利かせて打ってきた。

シュートの確率は日本のほうがはるかによかったが、どの選手も思い切ったシュートで攻めてきたのが特徴だった。

個人（日本）の攻撃記録をみると、シュート率はシュート数10以上の選手では畑中が42％、松本64％、藤山54％、坂木30％、木元25％、同9以下では西田と坂上が67％、林と堀川景が50％をマークした。今後の課題としては本数（シュート数）を増し、得点数をふやしていかなければならないことがあげられよう。

あるいは対戦させられるのではないかとみられていた実業団の強豪・白花醸造が会社の都合で解散しており、これは非常に残念なことだったがこのチームのエースとして活躍していた左腕・李純玩（1m70、68K）が梨花女大の1年生で活躍しているほか、その他の主力も学生界やOGクラブで活動をつづけ、韓国女子界のいぜん中心であった。今秋には新しい実業団女子が発足するとのことであり、一日も早く日韓力をあわせて技を競い、世界の上位へ「アジアの女子」が飛躍するよう努力したいと思う。（日体大女子監督）

全日本学生(女)シュート率

	シュート数	得点	確率
第1戦	20	11	55%
第2戦	20	9	45
第3戦	28	9	32
第4戦	23	12	52
第5戦	27	10	37
計	**118**	**51**	**43.2**

韓国学生シュート率

	シュート数	得点	確率
韓国ジュニア	26	13	50%
梨花	31	8	22.6
全慶熙	31	13	42
韓星女大	39	8	20.5
全鳳永	44	8	18.6
計	**171**	49	**28.2**

心あたたまる歓待

畑中　多恵子

むこうに着いてから、試合場はテニスコートを使っての屋外であること、コートの広さは私達が聞いていたのとは全く違い、普通の広さであることを聞かされ、又いざ試合をしてみると、ボールは大きいし重いし、仕方のないことかもしれないが審判の違いなど、予期せぬことの連続で、みんななかなかりとまどってしまった。

梨花女子大とは二試合目で顔を合わせたのであるが、試合の前に会食に招待され、大学を見せてもらいそのあまりの広さと美しさに目をみはってしまった。いろいろなもてなしを受けたあと、お礼の意味で私達が歌った「アリラン」や「トラジ」の歌で雰囲気も盛り上がり、さらに梨花女子大のポイントゲッターである李純玩さんが日本語で歌ってくれた「ここに幸あり」には全員がそのうまさに驚いてしまった。男女とも招待された慶熙大もまた、すばらしく、山をいくつかキャンパスに持っているという恐ろしく広いそしてきれいな大学であった。

四試合目の会場は男子と女子が別々で、女子はバスでゆられること六時間、日本に最も近いという釜山へ着いた。ここでも、女子の学生の韓国遠征は初めてということで、その歓迎ぶりは大変なものであった。特に会長さんの歓待ぶりには心あたたまる思いがした。

試合も、この暖かい歓待のおかげか、それとも合宿で練習した狭いコート、体育館、という唯一の練習成果を発揮できる条件のそろった場所のおかげか、とにかく勝つことができた。ソウルに戻っての最終試合に勝て対戦成績三勝二敗と、やっとの思いで勝ち越すことができた。韓国チームの印象としては、うまいというよりボールによく慣れているという感じであった。そして全員がよく走り、「ボールを持たない者が動いてチャンスをつくる」ということがよくできているようであった。

こうしていろいろな歓待を受けながらも、やはり日本に帰る日が近づいてくると、みんなそわそわしてあちこちで流行した寄せ書きの帽子は、「早く日本へ帰りたい。」という意味の言葉でいっぱいになっていた。（FP、東教大4年）

九産大、広島修道大制す

西部学生選手権

第23回西部学生選手権大会は6月15日から3日間、山口県立体育館などに中四国学連から5校、九州学連から8校の計13校が参加してトーナメントで行われた。

3連勝を目指す九州産大が順当に勝ち進んだのに対し、過去9回の優勝経験をもつ山口大や、同4回の熊本商大、同2回の西南学院松山商大らはすべて2回戦までで姿を消した。

決勝は九州産大と中四国春の優勝校・広島修道大（旧・広島商科大）の対戦となったが、九州産大が一方的に押しまくりダブルスコアで快勝した。

なお、今年から行われるようになった女子は、本誌既報のとおり山口大が福岡教大を8－7で破り優勝を決めた。

▽1回戦

		前半	後半		
広島修道大（中四国）	23	16－4	7－5	9	福岡工大（九州）
熊本大（九州）	24	11－10	13－8	18	岡山大（中四国）
福岡教大（九州）	23	11－2	12－2	4	松山商大（中四国）
福岡大（九州）	25	14－8	11－3	11	広島工大（中四国）
山口大（中四国）	18	8－13	10－3	16	熊本商大（九州）

▽準々決勝

		前半	後半		
広島修道大	23	16－4	7－5	9	西南学院（九州）
熊本大	18	9－10	9－5	15	福岡教大
福岡大	24	16－8	8－5	13	熊本工大（九州）
九州産大（九州）	27	14－10	13－4	14	山口大

▽準決勝

		前半	後半		
広島修道大	23	12－13	11－6	19	熊本大
九州産大	29	16－4	13－4	8	福岡大

▽3位決定戦

		前半	後半		
福岡大	19	11－6	8－11	17	熊本大

▽決勝

		前半	後半		
九州産大	28	14－7	14－7	14	広島修道大

東北大が優勝遂げる

第24回東北大学総合体育大会ハンドボール競技は6月30、7月1日福島で行われ、東北大が4連勝した。

▽準決勝

東北大	24－16		仙台大
岩手大	15－7		福島大

▽決勝

		前半	後半		
東北大	16	4－8	12－5	13	岩手大

東大、10年ぶりの勝利

第23回東大－京大戦は7月8日東大（駒場）で行われ、東大が逆転勝ちした。対戦成績は京大の20勝3敗。東大の勝利は38年以来だ。

		前半	後半		
東大	21	15－6	6－9	15	京大

合 織 糸 ・ 合 織 混 紡 糸

田村紡績株式会社

社 長 田　村　正　衛

四 日 市 市 東 茂 福 町 10 ― 17
T E L 0593―65―2156（代表）
郵便番号　5 1 2

九州から大野スポーツ少年団

全日本中学生

2年目を迎えた全日本中学生大会は8月16日から18日まで名古屋市郊外の愛知県青少年公園球技場に、全国9ブロックと地元・愛知県代表、男女各10チームが参加して行われる。

内外注目のうちに開かれた初大会は、予期以上の成果をあげて2年目へ引きついだが、今シーズンは昨年にも優る盛りあがったムードを感じさせる。

昨年、この大会のために予選会（他の大会を兼ねたものを含めて）を開いた地方は、男子27道府県、女子22府県だったが、今年は、30を越すだろう。

参加チームの熱意も強まる一方特に父兄の関心は高い。例えば東海予選（6月・清水市）で、岐阜代表・長森中学(男)チームには、大型バスで応援団が乗りこみ盛んな声援を送ったし四国予選（6月・高松市）や、九州予選（7月・佐賀県神埼町）でも同じような風景がみられた、という。

競技面でも話題は多く、四国予選の男子1回戦香川中×香川・桜町中は第2延長にもつれこむ大熱戦、九州の女子代表には長崎・大野スポーツ少年団が他県の中学チームをなぎたおして決まっている。また、地元・愛知県大会では本誌既報のとおり、昨年の男子優勝校・東港中が準々決勝で敗退する波乱があった。

技術的には、すでに昨年、高校チーム顔負けという評判がとぶほど高水準を示し、社会人、学生、高校生に伍してこの大会のプレーが認められ全日本ジュニアへ1名がリストアップされたほど。今年はいっそうレベルアップしたようで、楽しみである。

【第2回全日本中学生大会出場チーム＝7月10日まで決定分・順不同】▽愛知　男・笹島中、女・上野中▽四国　男・香川中、女・香東中▽東海　男・岐阜長森中、女・岐阜加納中▽九州　男・長崎戸町中　女・長崎大野スポーツ少年団＝各地の記録は次号詳報

女子の部（オープン）も実施

全日本教職員

第16回全日本教職員選手権は8月10日から13日までの4日間、茨城県水海道市（来年の国体開催地）に全国から34チームが参加、トーナメントで優勝を争う。

今年からオープン競技として女子の部も設けられ、4チームによるリーグ戦が行われる。（S）

イーグルス、スワロー中心

男子は、年々実力差がなくなってきているが、優勝争いということになると今年も大阪イーグルス、スワロー兵庫の両雄が筆頭で、これを千葉、鹿児島、埼玉、和歌山らが追う昨年同ようの展開になりそうだ。

3連勝めざす大阪イーグルスはGK本田、福井、池本、高橋らが健在のうえ、実業団（湧永薬品）からオリンピック選手の早川が教員界へ身を転じて加ったのは大きい。このほか河原崎、安達、樫塚など実力充分の選手が揃っている。

対抗のスワロー兵庫は、総合力ではつねにイーグルスをしのぐとみられながら、不思議とこの大会では勝てない。

ベテラン北山をリーダーに黒田、井上、畑、木野らへ松岡(日体大)が加入、スケールの大きい攻撃力を誇る。問題は守りで、最終線に堅守・上野をもつだけにFPのディフェンス面での粘りがでれば、初優勝は充分期待できよう。

ダークホースと見られる千葉は2ケ月後に国体を控え、練習量も豊富のようだ。特に笠原、松、岩下、氷海、新人・浅原（日体大）らの得点力は高いものがある。

鹿児島は、昨秋の国体優勝で自信をつけ、今シーズンも9月の九州選手権（熊本）で優勝するなど安定している。埼玉教員は仲尾（東京教大）を加えたものの、選手年令が高く、かっての鋭さがうすれはじめてきたのはさびしい。しかし、試合運びの巧さは定評があり、鹿児島戦を切り抜けるようだと、イーグルスも油断できない。和歌山もメンバーに変動はないが、まとまりがありうるさい存在だ。

このほか上位を狙っているのは岐阜、栃木、茨城、長崎、岡山、群馬、愛知、熊本、大分、東京あたりで、特にこのなかでは関東勢の試合ぶりに注目したい。

上位陣の固定化はそれなりにこの大会を特色づけているが、今年あたり、そろそろ新風が吹きこむことを望みたいものである。

女子の部新設はビッグニュースだ。日本協会も、自衛隊大会同よう特別の扱いで、この部門の育成バックアップを決めている。後進の指導のみしか活躍の場がなかった教育系大学出身の有能な選手を再びコートへ「プレイヤーとして」呼び戻すきっかけができたことはすばらしい。

回を重ねるごとにレベルを引きあげ、実業団界と肩を並べるまでに成長して欲しいと思う。

女子（オープン種目）
▼リーグ第1日　栃木―茨城、東京―大阪、▽第2日　大阪―栃木、茨城―東京、▽第3日　栃木―東京、茨城―大阪

大阪イーグルス
新潟教員
宮崎教員
岐阜教員
秋田高専教
山梨教員
福岡教員
栃木教員
長野教員ク
茨城教員
グランドスワロー（兵庫）
長崎教員
岩手教員ク
福島教員
鹿児島教員
愛知ク
埼玉教員ク
千葉教員
岡山教員
愛知教員
愛媛教員
オールドイーグルス（大阪）
南・北海道教員団
和歌山教員ク
三重教員
静岡教職員団
群馬教員
大分教職員団
広島県教職員ク
大阪教員
神奈川教員
東京教員
秋田教員
スワロー兵庫

男女とも全都道府県代表揃う

全日本高校選手権展望・嶋田新太郎

（全国高体連副部長）

全国47都道府県からもれなく男女代表が送りこまれた——高体連の悲願を実らせた第24回全日本高校選手権（インター・ハイスクール）は8月2日から7日までの6日間、炎天下の三重県四日市市・四日市高特設グランドで行われる。

昭和25年、男子31都道府県53校、女子21都道府県32校の参加でスタートした本大会。まず男子が、第15回大会（昭39）に40都道府県参加の大台へのせ、2年前の第22回大会でフルエントリーの宿願をとげた。女子は第16回大会（昭40）で41、4年前の第21回大会に46と伸ばしてから「鳥取待ち」をつづけ、今年ようやく待望の全県登場となったものである。24年間の月日、「苦斗の24年」とは誰も思わない。「情熱の24年」であった。記念すべき大会の優勝の行方を、各地からの情報をもとに探ってみよう。

なお、優勝校は8月20日東京・駒沢体育館で行われる日韓高校交歓大会の日本代表校となる。女子の交流は史上初。（＝関連記事23頁）

今年からインター・ハイ（全国高校総合体育大会）そのものの適正化という線にそって、予選参加校数の多少にかかわらず、各都道府県からの代表は男女各1チームに限定された。前年度優勝校と開催県はこれまでどおり2校が認められるので出場チーム数は男女それぞれ49校、計98校。当分この数字は変わらないことになる。

例年注目の初出場校は、男15、女7校。

一方、古参・伝統校は女・涌谷（宮城）の21回、男・清水商（静岡）の20回がだんぜん光る。

このほか、山梨（女・山梨）の19回、熊本市立（女・熊本）の18回、水海道二（女・茨城）の17回がめぼしいところ。連続出場は秋田和洋女（女・秋田）の13年連続が抜群、小諸商（女・長野）の12年連続がこれにつぐ快記録。男子は清水商の7年連続が最高だ。

アベック出場は清水商、羽水（福井）、三本松（香川）、池田（徳島）、大分東（大分）の5校。三本松は3年連続4度目という〝仲のよさ〟である。

このほか男子で呉宮原（広島）が20年ぶりに出場するのが話題だろう。

主な予選敗退組は、男子では桜台、中京の愛知勢、麻生（茨城）、新居浜工（愛媛）、添上（奈良）、鰺ケ沢（青森）、塩山商（山梨）など、女子は前年準優勝の高蔵（愛知）が涙をのんでいる。

男子

中大付に強敵名城大付

Aゾーンでは2連勝を狙う中大付属（東京）にとって名城大付（愛知）は手強い。左腕を揃えた名城大付は6年ぶり満を持しての登場で、しかも東海制覇を遂げている。佐藤（全日本ジュニア）を軸に残すものの追われる立ち場となった中大付属は苦しみそう。しかし、名城大付も楽観は許せない。特に初芝（大阪）の地力は不気味である。このほか中村（高知）、大分東大石田（山形）、呉宮原も侮れぬ。

強者揃い激戦は必至

Bゾーンは北海道1位・室蘭東、東北1位・聖光学院工（福島）、中国1位・岩国（山口）と揃った。いずれも自信満々の布陣であり、ゆずれぬところだ。

また、国体を来年に控えた笠間（茨城）も地力をつけており、地元・津工（三重）も簡単には引きさがるまい。さらに仙台育英（宮城）、小杉（富山）、平安（京都）、岐阜商（岐阜）もまとまっている。1・2回戦の接戦はこのゾーンがいちばんだろう。

小倉西が焦点か

Cゾーンでは小倉西（福岡）の力が一歩先んじている感じだ。前年3位、国体1位（鹿児島）のキャリアもものをいいそうである。

2回戦で初出場ながらめっきり力をつけている国立（くにたち、東京）と当るだろうが、ここが一つのヤマ。惑星は三本松。

追撃のかまえを見せているのは本拠地・四日市工（三重）のほか清水商、富岡（群馬）、粘りづよい花巻北（岩手）、知念（沖縄）など多士済々。

前評判高い慶応、湯沢

Dゾーンは関東1位の慶応（神奈川）に前評判が集っている。伝統の技に今年はパワーが加って「優勝」の声をかける人もいるほど。しかし、荒けずりではあるが底力をもつ鹿児島工（鹿児島）、水俣工（熊本）の九州勢、東北の雄、前年2位の湯沢（秋田）、バランスのとれた武庫工（兵庫）、松山北（愛媛）なども好チームだ。慶応独走といくかどうか——。

女子

深谷女、大分東が中心

Aゾーンは前年優勝・深谷女(埼玉)に沖縄国体2位の大分東、をはじめ、ホームコートの四日市(三重)、甲子園学院(兵庫)、神埼農(佐賀)、真備(岡山)らがからむ。倉吉産業。待ちに待った鳥取からの登場である。ひとふんばりして欲しい。

深谷女としては大分東戦が大きな難関である。

ひしめきあう強豪

強豪がひしめきあっているのがBゾーン。

徳山(山口)、秋田和洋女、室蘭商(北海道)、水海道二はいずれもブロック・チャンピオン。

このほか青森西(青森)、三木松(香川)、添上(奈良)、小諸商島原農(長崎)と並ぶのだからすごい。

中国大会で1試合平均の得点13同失点2点強という徳山が一応、中心となろうが、「絶対」とはいえない。

このゾーンの勝者が優勝しそうだ、という評判がもっぱらだ。

波乱ぶくみの各校

Cゾーンでは北信越1位・小松市女(石川)が強そうだが、国学院栃木(栃木)、清水商、大谷(大阪)、山陽女(広島)、明徳商(京都)、暁(三重)ら試合巧者が並んでいるし、小禄(沖縄)、浦和市立(埼玉)も力をつけている。波乱ぶくみのグループであり、予断は許されない。

好調示すか熊本市立

Dゾーンは沖縄特別国体優勝の熊本市立(熊本)の好調が目立つ。

熊本を追って国体を待つ昭和学院(千葉)、前年3位の市邨学園(愛知)が激しく序盤で星をつぶしあう。

新居浜商(愛媛)、涌谷、桜水商(東京)の名門校も意欲充分だ。

また、国分実業(鹿児島)、古賀(福岡)の九州勢や花巻南(岩手)もソツなくまとまっている。

優勝争いを占う

地域差の少なくなった最近のインター・ハイ。ベストエイトを占うのさえ骨が折れる。ましてや優勝校をさぐりだすなど至難なことだが、男子は、順当なら準々決勝は中大付—名城大付・初芝、岩国・聖光学院—仙台育英、小倉西—清水商、慶応—湯沢あたりとみたい。

女子は深谷女・大分東—甲子園学院、国学院栃木—小松市女、新居浜商—熊本市立のほか、Bゾーンの秋田和洋、水海道二、徳山らであろう。炎天下6日間の一本勝負ともなれば実力以外の、コンデイショニングや大会特有のムード、さらには一気にかけあがる勝運などの作用するわけで、むしろこうした要素が明暗を分つことになりかねない。

ミュンヘンからモントリオールへ。次代を荷う若い息吹きを思い切り感じさせて欲しい——。

○……男　子……○

中大附属(東京)
中村(高知)
金沢泉丘(石川)
浦和南(埼玉)
大分東(大分)
御坊商工(和歌山)
池田(徳島)
名城大附(愛知)
日川(山梨)
大石田(山形)
呉宮原(広島)
初芝(大阪)
津工(三重)
矢板中央(栃木)
室蘭東(北海道)
仙台育英(宮城)
小杉(富山)
岐阜商(岐阜)
聖光学工(福島)
口加(長崎)
岩国(山口)
佐賀商(佐賀)
平安(京都)
笠間(茨城)

小倉西(福岡)
国立(東京)
羽水(福井)
四日市工(三重)
青森(青森)
三本松(香川)
児島(岡山)
花巻北(岩手)
清水商(静岡)
浜田水産(島根)
八幡工(滋賀)
知念(沖縄)
富岡(群馬)
都城工(宮崎)
生駒(奈良)
慶応(神奈川)
倉吉工(鳥取)
鹿児島工(鹿児島)
屋代(長野)
松山北(愛媛)
清水(千葉)
水俣工(熊本)
武庫工(兵庫)
柏崎工(新潟)
湯沢(秋田)

○……女　子……○

深谷女(埼玉)
真備(岡山)
新潟女(新潟)
神埼農(佐賀)
池田(徳島)
大分東(大分)
石川(福島)
四日市(三重)
山梨(山梨)
甲子園学(兵庫)
倉吉産業(鳥取)
加納(岐阜)
青森西(青森)
粉河(和歌山)
小諸商(長野)
三本松(香川)
小林商(宮崎)
桐生女(群馬)
島原農(長崎)
和洋女(秋田)
水海道二(茨城)
室蘭商(北海道)
添上(奈良)
徳山(山口)

国学院(栃木)
清水商(静岡)
大谷(大阪)
羽水(福井)
浜田(島根)
明倫(神奈川)
暁(三重)
浦和市立(埼玉)
小禄(沖縄)
竹田女(山形)
小松市女(石川)
明徳商(京都)
山陽女(広島)
守山女(滋賀)
国分実業(鹿児島)
新居浜商(愛媛)
涌谷(宮城)
古賀(福岡)
桜水商(東京)
花巻南(岩手)
高岡女(富山)
高知西(高知)
昭和学院(千葉)
熊本市立(熊本)
市邨学園(愛知)

第24回 全日本高校 各県予選記録（下）

☆ 太字は代表校

☆ 7月10日締切り

北海道

◇北海道決勝大会

▼男子決勝

室蘭東 19－18 札幌南

室蘭東高は初出場

▼女子決勝

室蘭商 5－3 室蘭東

室蘭商は3年ぶり8度目の代表

（注）その他の試合記録は本誌28頁ブロック高校「第24回北海道高校」の項参照

東北

▽……岩手県

▼男子1回戦

岩手 17－11 盛岡三

花巻農 25－7 盛岡市立

一関工 20－10 谷村学院

生活学園 22－9 福岡

▽同準々決勝

盛岡一 12－11 岩手

花巻農 11－6 盛岡四

花巻北 15－7 一関工

盛岡商 19－10 生活学園

▽同準決勝

盛岡一 12－9 花巻農

花巻北 10－8 盛岡商

▽同決勝

花巻北 9－7 盛岡一

花巻北高は初出場

▼女子1回戦（3試合）

盛岡二 8－4 大原商

黒沢尻南 5－4 平舘

谷村学院 8－4 一関修紅

▽同準々決勝

岩手女 8－6 盛岡二

花巻北 14－2 生活学園

花巻南 5－0 黒沢尻南

花巻農 14－3 谷村学院

▽同準決勝

岩手女 6－3 花巻北

花巻南 11－8 花巻農

▽同決勝

花巻南 5（延）4 岩手女

花巻南高は3年ぶり11度目の代表

▽……秋田県

▼男子予選リーグA組

湯沢 20－4 横手

大曲農 6－4 横手

湯沢 12－4 大曲農

▽同B組

秋田南 13－9 羽後

羽後 12－8 大曲

秋田南 20－8 大曲

▽同決勝トーナメント1回戦

湯沢 13－5 羽後

大曲農 10－5 秋田南

▽同決勝

湯沢 15－5 大曲農

湯沢高は5年連続10度目の代表

▼女子決勝リーグ

和洋女 19－1 大曲

六郷 9－4 大曲農

六郷 9－5 大曲

和洋女 10－3 大曲農

大曲農 11－3 大曲

和洋女 6－5 六郷

【順位】①和洋女②六郷③大曲農④大曲＝和洋女高は13年連続15度目の代表

▽……青森県

▼男子1回戦

青森商 9－8 十和田

野辺地 10－9 三本木

五所工 10－9 弘前南

七戸 11－10 柏木農

▽同準々決勝

鰺ケ沢 13－10 七戸

五所 18－14 五所工

青森東 11－7 野辺地

青森 10－2 青森商

▽同準決勝

青森 12－5 青森東

鰺ケ沢 18－8 五所

▽同決勝

青森 12－11 鰺ケ沢

青森高は7年ぶり14度目の代表

▼女子1回戦（3試合）

柏木農 6－5 青森

七戸 2－1 鰺ケ沢

三本木 15－1 大湊

▽同準決勝

青森西 14－5 柏木農

三本木 4－2 七戸

▽同決勝

青森西 5－4 三本木

青森西高は4年連続4度目の代表

▽……山形県

▼男子決勝リーグ

東根工 14－5 真室川

大石田 12－5 寒河江

新庄工 17－8 真室川

大石田 5－3 東根工

新庄工 13－5 寒河江

大石田 11－8 新庄工

東根工 8－6 寒河江

大石田 9－4 真室川

東根工 8－6 新庄工

寒河江 15－5 真室川

【順位】①大石田②東根工③新庄工④寒河江⑤真室川＝大石田高は2年連続8度目の代表

▼女子決勝リーグ

米沢女 6－3 尾花沢

竹田女 7－5 米沢女

竹田女 7－3 尾花沢

【順位】①竹田女②米沢女③尾花沢

竹田女高は3年連続5度目の代表

関東

▽……栃木県

▼男子1回戦（1試合）
足利工 10－5 足利商
▽同準々決勝
馬頭 11（延）10 国学院栃木
矢板中央 33－7 宇都宮工
足利工 13－5 足利
烏山 17－5 石橋
▽同準決勝
矢板中央 10－8 馬頭
足利工 13－7 烏山
▽同決勝
矢板中央 10－6 足利工
矢板中央高は初出場
▼女子1回戦（3試合）
国学院栃木 26－1 足利商
馬頭 9－5 佐野女
小山城南 23－2 足利女
▽同準決勝
国学院栃木 22－4 馬頭
栃木女 4－3 小山城南
▽同決勝
国学院栃木 4－3 栃木女
国学院栃木高は3年連続の代表

▽……群馬県

▼男子準々決勝（＝1回戦）
富岡 7－2 前橋商
桐生工 15－6 太田工
甘楽農 16－12 上武一
前橋工 22－7 藤高
▽同準決勝
富岡 27－2 桐生工
前橋工 22－10 甘楽工
▽農同決勝
富岡 18－9 前橋工
富岡高は3年ぶり13度目の代表
▼女子準々決勝（＝1回戦）
桐生女 9－6 藤高
前橋東商 14－6 群馬女
高崎市女 11－8 高崎女
前橋市女 11－6 下仁田
▽同準決勝
桐生女 11－4 前橋東商
前橋市女 16－3 高崎市女
▽同決勝
桐生女 6－7 前橋市女
桐生女高は初出場

▽……茨城県

▼男子1回戦
波崎 24－4 緑岡
竜ケ崎一 13（延）11 玉造工
土浦一 20－11 勝田工
古河三 17－8 下館一
石岡商 26－12 総和工
取手一 28－10 石下
石岡一 23－10 水戸一
土浦三 12－9 茨城
水戸工 13－7 磯原
鉾田一 21－11 岩井
江戸崎 15－14 日立一
江戸崎西 22－6 常北
水海道一 23－5 日立工
土浦工 25－5 潮来
▽同2回戦
笠間 18－5 波崎
土浦一 15－11 竜ケ崎一
石岡商 32－6 古河三
石岡一 19－10 取手一
土浦三 21－6 水戸工
鉾田一 21－5 江戸崎
水海道一 14－10 江戸崎西
麻生 8（延）7 土浦工
▽同準々決勝
笠間 18－7 土浦一
石岡一 22－13 石岡商
鉾田一 12－10 土浦三
麻生 13（延）11 水海道一
▽同準決勝
笠間 11－6 石岡一
麻生 14－7 鉾田一
▽同決勝
笠間 5－4 麻生
笠間高は2年連続3度目の代表
▼女子1回戦
磯原 20－11 潮来
結城二 22－6 常北
八郷 13－5 土浦三
石下 12－3 江戸崎
太田二 13－6 竜ケ崎二
▽同2回戦
水海道二 16－5 磯原
波崎 11－9 高萩
岩井 19－7 水戸二
石岡 14－9 結城二
八郷 6－4 笠間
麻生 13－3 石下
石岡二 11－3 日立二
鉾田二 13－2 太田二
▽同準々決勝
水海道二 7－1 波崎
岩井 4（分）4 石岡
抽せんで岩井高の勝ち
八郷 10（延）7 麻生
鉾田二 8－1 石岡二
▽同準決勝
水海道二 15－2 岩井
鉾田二 11－6 八郷
▽同決勝
水海道二 10－4 鉾田二
水海道二高は4年連続17度目の代表

▽……東京都

▼男子決勝リーグ
国立 14－7 明星
早稲田学院 14－13 羽田工
国立 9－6 羽田工
早稲田学院 14－7 明星
明星 14－7 羽田工
国立 7－5 早稲田学院
【順位】①国立②早稲田学院③明星④羽田工＝国立高は初出場
▽参考記録
中大附属 12－3 羽田工
中大附属 7－6 明星
中大附属 19－5 早稲田学院
中大附属 9－5 国立
中大附属高は推せん出場
▼女子決勝リーグ
桜水商 14－1 井草
小平 4－2 五商
桜水商 5－2 五商
小平 5－4 井草
五商 9－2 井草
桜水商 5－4 小平
【順位】①桜水商②小平③五商④井草＝桜水商高は5年連続12度目の代表

▽……神奈川県

▼男子予選トーナメント1回戦
日野 19－8 桜丘
北陵 12－11 多摩
東 19－4 生田
法政二 21－6 浅野
法政工 16－7 立野
一商 26－3 緑丘
新城 17－6 大和
▽同2回戦
慶応 21－7 日野
県商工 16－6 三浦
平沼 14－5 市川崎
磯子工 22－1 松田
相模原 15－6 北陵
川崎市工 13－12 関東学院
逗子 21－3 武相
桐蔭 11－6 東
法政二 11－8 横浜商工
向工 12－11 鎌倉学園
神工 15（延）13 希望ケ丘
法政工 13－4 南
横浜商 11－8 一商
茅ケ崎 15－12 相模台工
翠嵐 16－4 市横須賀工
川和 12－7 新城
▽同3回戦
慶応 21－9 県商工
磯子工 13－7 平沼
川崎市工 18－6 相模原

桐蔭 18—6 逗子
法政二 12—9 向工
法政工 13—12 神工
茅ケ崎 11—9 横浜商
川和 30—1 翠嵐

▽同決勝リーグ進出校決定戦

慶応 15—7 磯子工
桐蔭 19—11 川崎市工
法政工 13—12 法政二
川和 9—5 茅ケ崎

▽同決勝リーグ

慶応 17—14 川和
桐蔭 18—9 法政工
慶応 4（分）4 桐蔭
法政工 15—9 川和
慶応 17—5 法政工
桐蔭 7—4 川和

【順位】①慶応②桐蔭③法政工④川和＝慶応は2年ぶり2度目の代表

▼女子予選トーナメント1回戦

大津 6—2 三浦
京浜 17—3 高津
県商工 9—1 茅ケ崎
日野 10—6 多摩
江南 5—4 生田

▽同2回戦

東 14—0 大津
市川崎 12—5 川南
二俣川 7—4 川和
京浜 6—5 立野
明倫 8—2 県商工
平沼 7—3 高浜
北鎌倉 10—5 日野
上溝 12—4 江南

△同決勝リーグ進出校決定戦

市川崎 6—5 東
京浜 18—2 二俣川
明倫 14—1 平沼
北鎌倉 11（延）10 上溝

▽同決勝リーグ

北鎌倉 7—3 市川崎
明倫 22—0 京浜
市川崎 11—6 京浜
明倫 15—5 北鎌倉
明倫 12—6 市川崎
北鎌倉 8—5 京浜

【順位】①明倫②北鎌倉③市川崎④京浜＝明倫は初出場

北信越

▽……石川県

▼男子1回戦

小松商 15—12 津幡
小松工 21—6 金沢商
小松 13—11 二水
星陵 13—8 羽咋
松陵 15—3 大谷

▽同準々決勝

泉丘 21—13 小松商
小松工 10—5 金沢市工
星陵 19—12 小松
県工 20—5 松陵

▽同準決勝

泉丘 13—6 小松工
県工 13—11 星陵

▽同決勝

泉丘 14—11 県工

泉丘高は16年ぶり2度目の代表

▼女子1回戦（1試合）

羽咋 10—6 珠洲実

▽同準々決勝

小松市女 29—10 松任
短大附 13—6 星稜
小松商 20—2 羽咋
津幡 11—8 金沢商

▽同準決勝

小松市女 34—2 短大附
小松商 13—5 津幡

▽同決勝

小松市女 14—1 小松商

小松市女は10年連続10度目の代表

近畿

▽……大阪府（2次及び最終予選）

▼男子第2次予選東ブロック・リーグ順位①都島工②寝屋川③高津④門真

▽同中ブロック・トーナメント1回戦勝者　天王寺、上宮、八尾、此花、勝山、東住吉工

▽同2回戦勝者　天王寺、八尾、上宮、東住吉工

▽同準決勝

天王寺 8—7 八尾
東住吉工 10—6 上宮

▽同決勝

天王寺 9—8 東住吉工

▽同南ブロック・トーナメント1回戦勝者　泉陽、生野、富田林、岸和田、住吉

▽同2回戦勝者　佐野工、富田林、岸和田、三国丘

▽同3回戦勝者　佐野工、三国丘

▽同4回戦（チャレンジ・マッチ）

佐野工 21—9 岸和田
三国丘 19—5 富田林

▽同5回戦（南ブロック1位決定）

佐野工 15—9 三国丘

▽同北ブロック・決勝リーグ順位

①大商②北野③千里④東淀川

▽同最終予選1回戦

初芝 23—12 北野
春日丘 15—10 天王寺
桃山 18—12 大商
三国丘 8—6 枚方
泉北 21—11 寝屋川
佐野工 10—9 北陽
都島工 25—9 北淀
鳳 15—9 東住吉工

▽同決勝リーグ進出校決定戦

初芝 18—7 春日丘
桃山 15—12 三国丘
佐野工 10—8 泉北
鳳 14—10 都島工

▽同決勝リーグ

初芝 16—14 桃山
鳳 13—12 佐野工
初芝 14—10 佐野工
鳳 17—12 桃山
佐野工 15—13 桃山
初芝 13—10 鳳

【順位】①初芝②鳳③佐野工④桃山

初芝高は初出場

▼女子第2次予選東ブロック・リーグ順位①門真②寝屋川③つるみ商・福島女

▽同中ブロック・トーナメント1回戦勝者、東大阪、八尾

▽同2回戦勝者、天王寺、食品産業、四天王寺、女短附属

▽同準決勝

女短附属 3—1 四天王寺
天王寺 9—4 食品産業

▽同決勝

女短附属 8（延）7 天王寺

▽同南ブロック・トーナメント1回戦勝者、住吉学園、鳳、和泉、岸和田

▽同準決勝

住吉学園 11—4 鳳
岸和田 7—6 和泉

▽同決勝

住吉学園 10—4 岸和田

▽同北ブロック・決勝リーグ順位

①池田②箕面③豊中

▽同最終予選・決勝リーグ進出校決定戦

春日丘 7—3 門真
住吉学園 6—4 枚方
愛泉 13—3 女短附属
大谷 18—1 池田

▽同決勝リーグ

住吉学園 8—5 春日丘
大谷 8—3 愛泉
春日丘 11—1 愛泉
大谷 5—2 住吉学園
住吉学園 8—4 愛泉
大谷 7—4 春日丘

【順位】①大谷②住吉学園③春日丘④愛泉＝大谷高は2年連続8度目の代表

（注）第1次予選は前号既報

四　国

▽……愛媛県

▼男子1回戦
松山南 17—7 新居浜東
松山東 19—3 吉田
今治西 22—9 松山商
松山北 20—2 宇和島南
今治南 12—11 新田
松山北中島 17—10 新居浜商
▽同準々決勝
松山工 14—5 松山南
松山東 8—1 合治西
松山北 19—9 今治南
新居浜工 26—5 松山北中島
▽同準決勝
松山東 12—6 松山工
松山北 7—3 新居浜工
▽同決勝
松山北 8—4 松山東
松山北高は6年ぶり3度目の代表
▼女子1回戦（3試合）
西条 9—6 明徳
今治西 7(延)6 新居浜西
土居 10—8 今治南
▽同準々決勝
松山商 8—3 西条
新居浜東 8—3 東温
大洲農 11—5 今治西
新居浜商 14—1 土居
▽同準決勝
松山商 9—4 新居浜東
新居浜商 14—4 大洲農
▽同決勝
新居浜商 10—5 松山商
新居浜商は7年連続7度目の代表

九　州

▽……熊本県

▼男子1回戦
九州学院 28—6 熊本市立
八代工 15—10 天草工
水俣 18—13 熊本商
熊本 22—15 八代農
天草 18—8 真和
東海二 35—9 八代
鎮西 16—13 御船
球磨商 22—14 大矢野
▽同2回戦
熊本市商 20—6 九州学院
八代工 20—4 菊池農
宇土 18—15 水俣
第一工 30—7 熊本
水俣工 12—5 天草
熊本二 27—14 東海二
済々黌 16—11 鎮西
マリスト 24—10 球磨商
▽同準々決勝
熊本市商 30—6 八代工
第一工 11—10 宇土
水俣工 16—10 熊本二
済々黌 12—10 マリスト
▽同準決勝
第一工 23—8 熊本市商
水俣工 12—8 済々黌
▽同決勝
水俣工 15—7 第一工
水俣工は初出場
▼女子1回戦（3試合）
天草農 6—5 水俣
熊商松島 14—4 信愛
八代農 16—5 大矢野
▽同2回戦
熊本女商 23—3 天草農
牛深 9—4 菊池女
鹿本商工 13—7 熊本商
尚絅 7—6 熊商松島
九州女学院 14—5 鎮西
菊池農 13—10 倉岳
天草 21—4 熊本二
熊本市立 23—1 八代農
▽同準々決勝
熊本女商 21—4 牛深
尚絅 15(延)10 鹿本商工
九州女学院 15—4 菊池農
熊本市立 13—8 天草
▽同準決勝
熊本女商 20—5 尚絅
熊本市立 14—6 九州女学院
▽同決勝
熊本市立 13—7 熊本女商
熊本市高は4年連続17度目の代表

▽……沖縄県

▼男子1回戦
沖縄工 15—11 コザ
八重山 16—7 沖縄
宮古 13—10 豊見城
小禄 18—10 本部
南部農林 23—13 前原
中部工 21—9 北山
▽同2回戦
糸満 10—6 那覇
糸満 22—7 名護
知念 20—6 小禄
沖縄工 24—11 興南
北部農林 16(延)15 那覇工
浦添 14—9 八重山
宮古 19—12 真和志
中部工 14—8 南部工
南部農林 9—8 首里
▽同準々決勝
知念 17—5 北部農林
沖縄工 18—8 糸満
南部農林 12—7 中部工
浦添 15—8 宮古
▽同準決勝
知念 14—11 沖縄工
南部農林 11—10 浦添
▽同決勝
知念 13—5 南部農林
知念高は初出場
▼女子1回戦（2試合）
首里 9—5 コザ
八重山 15—5 沖縄
▽同2回戦
小禄 17—3 首里
那覇商 16—5 南部商
北山 11—10 真和志
興南 34—1 前原
浦添 24—2 中部商
知念 14—0 宜野座
八重山 10—7 宮古農
糸満 8—5 豊見城
▽同準々決勝
北山 8—6 那覇商
八重山 6—5 知念
小禄 8—4 興南
浦添 17—2 糸満
▽同準決勝
浦添 19—7 八重山
小禄 19—5 北山
▽同決勝
小禄 14—7 浦添
小禄高は2年連続6度目の代表

▽……鹿児島県

▼男子1回戦（3試合）
鹿児島南 17—12 鹿児島商
財部 38—8 九学附
薩南工 18—17 頴娃
▽同準々決勝
加治木 11—10 鹿児島南
財部 17—15 隼人工
加治木工 30—15 栗工
鹿児島工 13—12 薩南工
▽同準決勝
加治木 11—10 財部
鹿児島工 14—7 加治木工
▽同決勝
鹿児島工 15—7 加治木
鹿児島工は2年ぶり8度目の代表
▼女子1回戦（2試合）
川商工 13—8 知覧
加治木 24—12 串木野女
▽同準決勝
財部 11—2 川商工
国分実業 8—2 加治木
▽同決勝
国分実業 7—5 財部
国分実業高は初出場

ブロック高校選手権

第24回 北海道高校

室蘭勢が男女とも勝つ

◇道・決勝大会◇6月24、25日◇札幌南高球技場ほか◇参加、男11、女7

男子ではベストフォアに伝統の函館勢2校のほか室蘭、札幌地区の各1校が勝ち残り、特に札幌南は3連勝を狙う函館有斗を降して決勝まで進み室蘭東とまれにみる大激戦を演じた。結局、室蘭東が前半の貴重なリードで辛勝、初優勝を飾った。室蘭地区代表の優勝は第13回（昭37）の室蘭商以来。

女子は室蘭・函館勢のせりあいから室蘭商×室蘭東の決勝となり室蘭商が逆転勝ち、3年ぶり8度目の栄冠を手にした。

▽男子1回戦（3試合）

札幌啓成 26（12－0、14－4）4 岩見沢駒沢大附

函館大谷 22（9－2、13－3）5 札幌月寒

釧路商 12（5－4、5－6：1－0、1－0）10 室蘭栄

▽同準々決勝

室蘭東 19（8－3、11－8）11 札幌啓成

函館大谷 13（7－8、6－2）10 釧路湖陵

札幌南 19（10－6、9－6）12 釧路商

函館有斗 22（12－1、10－3）4 紋別北

▽同準決勝

室蘭東 18（5－5、13－6）11 函館大谷

札幌南 12（8－5、4－6）11 函館有斗

▽同決勝

室蘭東 19（8－7、11－11）18 札幌南

▽女子1回戦（3試合）

室蘭東 18（9－2、9－0）2 紋別北

函館女商 9（6－1、3－5）6 釧路湖陵

室蘭商 14（6－5、8－2）7 恵庭南

▽同準決勝

室蘭東 12（6－1、6－4）5 函館商

室蘭商 6（2－2、4－2）4 函館女商

▽同決勝

室蘭商 5（1－3、4－0）3 室蘭東

第26回 東北高校

新進の聖光、伝統の和洋

◇6月22～24日◇盛岡市・岩手大体育館ほか◇参加男12、女12。

男子は聖光学院工（福島）が安定した攻守で勝ち進み決勝でも古川工（宮城）に快勝、初優勝した。福島代表の優勝も初。

女子は、実力差が少くなり、緊迫した好試合がつづいたが、結局、秋田和洋女×涌谷（宮城）の宿敵同士で優勝を争い、一進一退から和洋女が終盤、勝ちこしの一点をあげ4連勝、通算8度目の優勝、秋田代表の制は5年連続9度目

▽男子1回戦

湯沢（秋田）14（6－3、8－3）6 東根工（山形）

聖光学院工（福島）22（11－4、11－5）9 鰺ヶ沢（青森）

大曲農（秋田）9（3－5、6－3）8 南会津（福島）

盛岡一（岩手）14（7－3、7－4）7 青森（青森）

▽同準々決勝

湯沢 8（2－2、6－2）4 仙台育英（宮城）

聖光学院工 16（5－0、11－7）7 花巻北（岩手）

古川工（宮城）10（5－2、5－6）8 大曲農

大石田（山形）12（3－3、9－4）7 盛岡一

▽同準決勝

聖光学院工 11（4－2、7－4）6 湯沢

古川工 18（5－5、13－7）12 大石田

▽同決勝

聖光学院工 17（7－4、10－6）10 古川工

▽女子1回戦

石川（福島）10（5－3、5－3）6 岩手女（岩手）

宮城二女（宮城）10（3－1、7－1）2 三本木（青森）

六郷（秋田）14（11－3、3－1）4 竹田女（山形）

花巻南（岩手）18（10－4、8－4）8 青森西（青森）

▽同準々決勝

秋田和洋女（秋田）9（4－2、5－1）3 石川

宮城二女 8（4－0、4－4）4 米沢女（山形）

六郷 18（12－1、6－3）4 日本女子工（福島）

涌谷（宮城）13（6－4、7－2）6 花巻南

▽同準決勝

秋田和洋女 8（3－3、2－2：2－0、1－1）6 宮城二女

涌谷 5（3－1、2－2）3 六郷

▽同決勝

秋田和洋女 7（3－3、4－3）6 涌谷

第9回 北信越高校

上田が6年ぶりの優勝

◇6月23、24日◇金沢美術工芸大学体育館◇参加 男10、女10。

男子は各試合とも勝負が後半にもちこまれる激戦がつづき、石川、富山勢が一校もベストフォアへ残れぬ展開となった。準決勝は長野×新潟の〝二県対抗〟、上田（長野）が勝ちあがり、柏崎工（新潟）、接戦の末、柏崎工は前半4－0と優位に立ったが、後半、上田の反撃が奏功、逆転勝ち

を演じ6年ぶり3度目の優勝を飾った。

女子は小松市女（石川）がすばらしいデキで3連勝4度目の優勝。

▽男子1回戦（2試合）

上田（長野）13（6－2、3－7、3－0、1－2）11 高岡商（富山）

柏崎工（新潟）12（3－5、9－3）8 県立工業（石川）

▽同準々決勝

屋代（長野）14（4－5、10－3）8 若狭（福井）

柏崎（新潟）16（9－7、7－4）11 羽水（福井）

柏崎工 10（4－5、6－4）9 小杉（富山）

上田 15（7－5、8－4）9 泉丘（石川）

▽同準決勝

柏崎工 9（5－5、4－3）8 屋代

上田 13（4－5、6－5、3－0、0－2）12 柏崎

▽同決勝

上田 6（0－4、6－1）5 柏崎工

▽女子1回戦（2試合）

高岡女（富山）8（2－0、6－0）0 美須々丘（長野）

福井商（福井）11（6－2、5－1）3 小松商（石川）

▽同準々決勝

巻（新潟）6（3－1、3－1）2 羽水（福井）

有磯（富山）6（4－1、2－2）3 新潟女（新潟）

小松市女（石川）8（4－0、4－2）2 高岡女

小諸商（長野）12（7－1、5－2）3 福井商

▽同準決勝

小松市女 17（7－0、10－1）1 巻

小諸商 6（4－4、2－0）4 有磯

▽同決勝

小松市女 11（6－1、5－3）4 小諸商

女子は西尾に初栄冠

第20回 東海高校

◇6月23、24日◇岐阜市・加納高球技場◇参加 男8 女8

全日本高校選手権の前哨戦としてもっとも注目を集めるブロック。男子が予想どおり名城大附（愛知）の勝に終ったのに対し、女子は伏兵の西尾（愛知）が巧みに激戦を勝ち抜き、四日市（三重）、市邨（愛知）ら各県の全日本高校代表を連破する大活躍で優勝した。名城、西尾ともに初優勝。愛知の男女優勝は6年ぶり9度目。

▽男子1回戦（＝準々決勝）

清水商（静岡） 四日市工（三重）

名城大附（愛知）15－12 岐阜南（岐阜）

静岡農（静岡）13－9 半田（愛知）

県岐阜商（岐阜）17－5 津工（三重）

▽同準決勝

名城大附 15（7－6、8－4）10 清水商

静岡農 12（5－1、7－8）9 県岐阜商

▽同決勝

名城大附 22（12－4、10－4）8 静岡農

▽女子1回戦（＝準々決勝）

西尾（愛知） 清水西（静岡）

浜松南（静岡）3－2 加納（岐阜）

市邨（愛知） 津女（三重）

四日市（三重）8－6 養老女（岐阜）

▽同準決勝

市邨 9（3－3、6－2）5 浜松南

西尾 8（5－3、3－3）6 四日市

▽同決勝

西尾 7（4－1、3－5）6 市邨

▽3位決定戦

男・清水商 14－12 県岐阜商

女・四日市 9－7 浜松南

韓国から高麗商、慶熙女 高校交流

日本協会は8月18、20日東京・駒沢体育館で行う第8回日韓高校交流（第6回日韓高校交歓スポーツ競技会ハンドボール競技）の韓国代表として、男・高麗商、女・慶熙女高が決まった、と発表した。

いずれも、今年6月の韓国高校選手権の優勝校で、高麗商（韓錫東監督ら13名）は、昨夏、訪韓した中大附属（東京）を12－11で破っている。

念願かなって初めて交流する女子の代表・慶熙女高（朴貞叢監督ら13名）は鳳永女商、聖貞女とともに韓国ビッグスリーといわれる強豪だ。

主力の李京淑、盧敬姫、GK金美愛は、いずれも韓国ジュニアに加っているホープ。韓国ジュニアは6月、全日本学生女子を13－11で退けているが、この試合で李は3ゴールをたたきだした。第3戦では全慶熙の選手として出場、李と盧のコンビで5点をあげ、全日本学生を破る原動力となっている。試合は8月18日に東京代表校、20日に全日本高校選手権優勝校が対戦する。両日とも13時から女子、14時から男子の予定。男子のこれまでの通算成績は日本側の22戦8勝12敗2引き分け。

高体連25周年記念バッチをどうぞ……。

全国高体連ハンドボール部は、来年に創立25周年を控えその記念事業として「記念バッチ」を頒売している。

ピン付き、ネジ付きの2種類で、一個80円。各都道府県高体連ハンドボール部で取扱っている。

昭和47年度インター・ハイ
ハンドボール選手の体力の実態

全国高体連ハンドボール部・報告

体力の問題が世の中に意識されてから、すでに久しい。戦前では富国強兵策としての体力向上が問題となり、戦後は東京オリンピックの頃から、平和の永続による価値観の変遷で健康が大きく組入れられた。もちろん健康がそのまま体力につながるものではないが、われわれ体育の担当者としては、体力が健康を支えるという立場をとるものである。

体力をどう理論としてとらえるかは学者の間の議論であるが、われわれ体育の現場をあずかるものにとって、体力を測定し、診断し、そして処方することが大切であるといわれている。われわれは体力を診断し処方する段階にまでは仲々至らないところがあるが体力はどのような現状であるか、という立場でとらえてみて、次の課題に迫っていきたいと考えている。

これまで過去2回にわたって、このような素朴な意識から出発し、手近かな被検者としてのインターハイに出場したハンドボール選手の体力を追いかけて来た。それはゆれ動く特別教育活動としてのクラブ活動、部活動あるいはスポーツ教室としての転換をさぐるクラブのあり方を求めている。われわれの研究仲間の1人は従来の校友会ハンドボールクラブのあり方として、対抗競技に参加したいならば毎日練習に参加したらいい、レクレーションとしてのハンドボールをしたいならば週一回でもよいとクラブ活動に参加する従来のクラブ活動の指導者および選手の考え方の改革を求め、活動の多様化を提案し運営の困難さにいどんでいる。これらの試みは生徒自身の限りない技術の向上をねがうものに答え、そしてまた週一回でもよいその参加から体力の維持向上を求めようとする生徒にも答えようとしているのである。われわれはこれらの仲間の背景とこれまで進めてきた過去2回にわたる本研究発表会を土台にして、技術の向上を目指すものと体力の向上を目指すものを区別出来ないままにこれまで5ケ年間にわたってインターハイに出場したハンドボール選手の体力測定を年中行事としてとらえ体力要素である形態と機能が一般生徒とどのように差があるのかトレーニング効果はどの要素にあらわれるのであるのかを分析してきた。今回はゆれ動くスポーツ教室のあり方また高体連の部活動のあり方の中点に立って現在のハンドボール選手の体力の実態を報告してみたいと考える。

▽方法△　測定項目は別項のように、スポーツテストの中の体力診断テストを中心として、その他、若干のハンドボール競技の体力特徴を示すであろう項目をとりあげてみた。それらは次のようなものである。

形態としては身長、体重、胸囲、指先長、手長、手幅である。この中でわれわれが特別に呼称している言葉もあるので特に説明を加えておきたい。まず指先長とは、垂直立位で利腕を挙上させ床から指先までの垂直姫離であらわしている。これはボールを投げ出す位置、また防禦に関係する身体部位の到達点と云う意味で、ハンドボール競技には重要であると考えている。また手長とは手首から指先までの直線距離をもってあらわしている。手幅とは手を力一ぱいに開かせたときの拇指と小指の先端から先端までの直線距離で表したものである。

体力の機能的面をとらえるために、握力、背筋力の代表的な筋力測定と、筋持久力をみようとして の反復おきあがり、柔軟性をとらえるために、体前屈と上体そらしの2項目、筋パワーをみるために垂直とび敏捷性をとらえるサンドステップおよび9m3往復走（これはスタートラインから9mのところに3個のボールを置き、合図により1個ずつボールを持ち帰るための3往復走で、この所要時間を計測するのである）。また全身持久力をみる踏台昇降テスト（男子50cm、女子40cmの台高で5分間）を行った。

測　定　項　目

〔形態〕1身長、2体重、3胸囲、4指先長（垂直立位で利腕上肢挙上の高さ）、5手長(右)、6同(左)、7手巾(右)8同(左)

〔機能〕1握力(右)、②同(左)③背筋力、4反復上体おこし⑤立位体前屈、⑥伏臥上体そらし、⑦垂直とび、⑧反復横とび、9「9m」3往復走、10踏台昇降（5分間）＝男子50cm、女子40cm。○内数字の項目は文部省調査共通項目

▽結果および考察△　ここでの考察は形態および機能で体立診断テストの重複する項目についてのみ行うことにした。図1にはインターハイベスト16位中の測定全チームの平均値が昭和43年度から昭和47年度までが図にプロットされている。

また図中の点線は昭和42年度から昭和46年度までの5ケ年間にわたる全国平均値が示されている。これは選手が16～17才の年令構成が大部分なので全国平均値もこれにならい16～17才の平均値であらわした。上から身長、体重、胸囲があらわされている。身長では選手が全国平均を約3 cm上廻っていることがわかる。また体重では約4～5 kg上廻っている。胸囲においても約2 cm～3 cm大きいことが明らかである。

このように選手が形態の代表的測度では明らかに選手が大きいことを示している。

スポーツテストの中の体力診断の項目である6項目にいつて全国平均値とインターハイ選手の体力機能を比較したのが図2である。上から反復横とび、伏臥上体そらし、垂直とび、立位前屈、背筋力、握力が実線の場合にインターハイ選手を示し、点線で全国平均値が5ケ年間にわたって比較されている。全国平均値を大きく上廻っているのは垂直とびである。やや上廻ると思われているものに反復横とび、握力がある。背筋力は全国平均値に対して、ときには上廻り、時には下廻ってるようである。

インターハイ選手が全国平均より劣るのは立位体前屈と伏臥上体そらしの柔軟性測定項目である。

図3（次頁）は女子の形態を示す。傾向は男子とほぼ同様であった。

ところで図5（次頁）に示した女子の体力機能面では柔軟性の項目で、伏臥上体そらしと立位体前屈では全国平均値とほぼ同等であるが、他の項目ではすべて選手群がすぐれている。

特にすぐれているのは反復横とびと垂直とびである。これらは自らの身体を運ぶためにすぐれた能力であることを指しているといえよう。そこで昭和43年度全国平均を基準として5ケ年間の変化の割合いを調べてみた。図7（27頁）は男子の形態の伸び率の比較である。

まず身長。昭和43年度全国平均を基準としているので、ここは零に示してある。白の棒グラフは昭和45年と46年はやや上廻っていることがわかる。47年は資料がないので比較出来ない。

これに対して黒の棒グラフは全国平均を2％上廻り、5ケ年間の変化はあまり認められない。

これはインターハイに出場する男子選手は一般生徒に較べてそれほど大きい身長を示しているとはいえそうもない。このことは誰れもがハンドボール選手になれることを示し、スポーツ教室で、ハンドボールは誰れにでもできるスポーツ種目となるであろう。

体重についてみると、全国平均の年次変化は44年、45年、46年と、徐々に増加の傾向がみられるが、それ程大きいようにはみえない。しかし生徒数からいうと大きな数であるので、見逃すことはできないだろう。選手についてみると全国平均を8％～12％上廻り年次の上からみて増加の傾向にある。この増加の割合は一般生徒より急のように見えるが、選抜され

〔図1〕　全日本高校ベスト16位と全国平均との比較～男子形態～

〔図2〕　全日本高校ベスト14位と全国平均との比較～男子機能～

〔図3〕 全日本高校16位と全国平均との比較〜女子形態〜

〔図4〕 全日本高校16位と全国平均との伸び率比較〜男子機能〜

〔図5〕 全日本高校16位と全国平均との伸び率比較〜女子機能〜

〔図6〕 全日本高校16位と全国平均との比較〜女子機能〜

た生徒たちであるので、このようになったのであろうと思われる。

胸囲は全国平均でみるとやや増加の傾向にあり、選手群でも同様な伸び率を示している。しかし一般生徒に対して4%~5%大きい。機能について比較したのが図4（前頁）である。握力は、一般生徒は46年度まではやや増加。選手群は上位チームを測定した44年度から16%増と一般生徒を上廻る。しかし、45年度は約8%と上がった。

これは選手群の内容が変ったからであろう。

背筋力は全国平均も動揺がある。しかし選手群はそれを大きくした変動を示す。43年は18%も上廻り、45年度24%にもなる年がみられるのに44年、および47年は5%以下というようになる。柔軟性を示めす立体前屈、および伏臥上体そらしについては多少の変動がみられるが、全国平均とたいした変化がない。

〔図7〕 全日本高校ベスト16位と全国平均との伸び率比較～男子形態～

垂直とびについては変化は大きい。全国平均をみると年次増加を示し、43年に対し、46年は約5%の増加を示す。そして選手群についてみると一般生徒との差が大きい。すなわち常にいつの年でも20%以上の差をもってすぐれているのである。筋力の項目の握力や背筋力が動揺しても垂直とびは大きな変化を示さない。これは明らかにトレーニング効果といえそうである。筋パワーの増強は明らかであり、スポーツ教室での種目として体力の面からとらえるとき大きなねらいの一つになるであろう。これは次の反復横とびでもこのことが云える。筋パワーを主体とした敏捷性は一般生徒との差では10%以上の差と、やや少ないがそれにしても各年において上廻っているのである。全国平均では45、46年と増加の傾向がみられる。選手群をこんな目でみてみると、47年はこれまでの4ケ年に比較して一番大きく約17%にもなっている。

女子についてみると、ほぼ男子と同様の傾向がみられる。図8をみると全国平均はあまり変化がみられない。一般生徒と選手群の比較では身長についてみるとき、選手群が約2%上廻っているが年次的にみて変化がない。体重では選手群が約7%上廻っているが、年次的にみると動揺を示している。胸囲では差はほとんどみられないのである。機能面についての観察で握力の全国平均値は年次低下の傾向である。これに対して選手群は6%以上全国平均値を上廻り年次的に増加の傾向がみられる。図6（前項）は女子の機能である。

背筋力については男子と同様、年次的に動揺が大きい。柔軟性を示めす立位体前屈と伏臥上体そらしでは女子の面白い特徴を示しているように思われる。

すなわち伏臥上体そらしは全国平均値との比較でも年次比較でもとりあげるべき変化はみられない。ところが立位体前屈では男女の測定項目を通じて唯一の全国平均値を大きく下廻る種目である。グラフをみてもわかるように最大で20%、最小でも8%低下であ

〔図8〕 全日本高校ベスト16位と全国平均との伸び率比較～女子形態～

る。

われわれの経験からいう過緊張、あるいは疲労のためになったのではないかと想像をしてみるが、それにしても差は大きい。垂直とびは男子と同様の傾向である。全国平均は43年に比較してやや上昇の傾向にある。選手群では全国平均値を約6%を上廻っている。反復横とびについても男子と同様である。以上のことからまとめてみると、形態では選手群が身長及胸囲は殆んど全国平均とかわらない。体重は男女とも選手群が大きい。機能面では筋パワー、敏捷性にすぐれ、当然関係のある筋力が大きい差をつけている。形態の項の身長がそれほど大きくないところからみて、トレーニング効果がみられるといってよかろう。これは、スポーツ教室などに一般生徒が参加することによって向上することのできる体力要素であるということができるだろう。

〔編集部・注〕挿入図の配列は編集のつごうで原文と異っていることをおことわりしておきます。

昭昭47年度全日本高校出場選手体力測定チーム別平均値標準偏差並に43～47年度別平均値・標準偏差（男）

番号	チーム名	所属都道府県名	身長	体重	胸囲	指先長	手長		手巾		筋力				柔軟性		瞬発力	敏捷性		持久力
							右	左	右	左	握力 右	握力 左	背筋力	反復上体おこし	立位体前屈	伏臥上体そらし	垂直跳	サイドステップ	9m 3往復走	踏台昇降（5分間）
			cm	kg	cm	cm	cm		cm		kg		kg	30秒回	cm	cm	cm	点	秒	指数
1	佐世保北	長崎	1695	63.3	895	2139	18.3	18.3	21.4	21.5	53.0	48.6	1540	23.9	14.5	55.8	67.4	46.0	13.8	89.6
2	都島工業	大阪	1724	63.0	91.1	2189	18.5	18.5	20.7	20.9	48.7	44.5	144.9	26.7	11.6	56.7	59.4	50.3	13.6	87.4
3	隼人工業	鹿児島	1676	58.3	85.4	2113	18.9	18.8	20.9	20.6	48.2	45.6	1300	23.4	12.7	52.5	63.9	44.1	14.1	85.7
4	下関中央工	山口	1713	60.0	89.1	2181	18.6	18.6	21.6	21.3	50.6	43.7	141.0	23.7	12.5	54.8	68.4	48.4	13.8	94.0
5	湯沢	秋田	1733	67.6	90.7	2221	19.0	19.0	22.0	22.0	50.0	49.7	1367	22.6	13.6	51.8	61.0	45.6	13.9	80.5
6	大石田	山形	1731	69.2	90.8	2193	18.7	18.7	21.2	21.0	51.1	46.1	143.7	20.9	14.0	51.7	64.5	46.1	14.2	86.1
7	東根工業	山形	1720	62.3	89	2186	18.8	18.8	20.8	20.6	48.5	46.6	144.6	21.7	12.9	57.9	63.8	43.3	14.0	84.1
8	清水市立商	静岡	1736	64.6	87.9	2194	18.7	18.7	21.7	21.6	50.2	47.0	149.1	22.0	13.7	63.2	66.4	48.7	13.8	87.9
9	麻生	茨城	1708	61.4	92.4	2107	18.2	18.2	21.1	21.2	48.7	46.4	156.7	23.1	11.2	53.9	63.8	46.7	14.0	101.3
10	中大附属	東京	1746	67.0	91.1	2212	19.2	19.2	22.1	22.0	51.4	46.3	143.4	18.4	12.0	55.4	62.9	44.3	14.1	87.3
11	加納	岐阜	1720	61.9	87.1	2171	18.8	18.8	21.7	21.3	46.8	43.2	133.6	19.16	13.6	58.9	64.4	47.7	13.7	88.5
12	小倉西	福岡	1743	63.7	87.9	2217	19.0	19.0	21.7	21.2	52.3	46.4	124.3	22.0	13.7	61.8	64.4	44.1	13.9	82.69
13	仙台育英	宮城	1746	65.3	89.3	2167	18.5	18.4	20.6	20.8	46.4	42.8	111.0	21.7	18.5	59.5	60.4	46.3	14.0	82.12
S47	平均値		1772	63.7	89.3	2176	18.7	18.7	21.3	21.2	49.8	46.0	139.5	22.3	13.5	56.5	63.9	46.2	13.9	87.4
	標準偏差		57	6.1	3.9	83	1.0	1.0	1.4	1.4	5.9	5.7	19.6	2.9	5.5	7.7	5.4	3.6	0.4	9.3
S46	平均値		1712	63.5	88.38	2151	18.3	18.3	21.0	20.9	49.44	44.82	149.04	22.20	14.69	60.03	62.14	44.00	13.89	94.86
	標準偏差		516	6.04	3.50	781	0.88	0.88	1.09	1.01	6.56	4.93	24.53	2.15	4.90	9.14	5.31	3.81	0.65	11.74
S45	平均値		17064	61.55	87.95	21549	18.83	18.80	21.22	20.96	48.34	43.61	156.40	22.06	13.32	58.74	63.75	46.59	13.89	81.73
	標準偏差		497	5.35	3.80	739	0.98	0.92	1.10	1.10	5.53	5.585	20.75	2.15	5.35	5.84	7.14	4.42	0.56	11.66
S44	平均値		1705	61.6	—	2156	18.3	18.3	20.4	20.4	48.8	44.7	133.3	22.2	12.7	55.8	64.8	44.4	13.9	85.8
	標準偏差		520	5.33	—	738	0.78	0.79	1.04	0.94	6.47	5.28	19.81	2.28	4.74	7.92	7.46	4.46	0.34	9.97
S43	平均値		1702	61.7	—	2150	18.2	18.4	20.8	21.0	44.7	40.6	148.5	21.1	13.4	57.9	61.8	43.5	14.6	98.5
	標準偏差		422	4.84	—	308	0.66	0.76	1.19	1.23	5.72	6.27	20.76	2.10	6.01	6.09	6.16	3.43	0.52	10.73

昭和47年度全日本高校出場選手体力測定チーム別平均値標準偏差並に43～47年度別平均値・標準偏差（女）

番号	チーム名	所属都道府県名	身長	体重	胸囲	指先長	手長		手巾		筋力				柔軟性		瞬発力	敏捷性		持久力
							右	左	右	左	握力 右	握力 左	背筋力	反復上体おこし	立位体前屈	伏臥上体そらし	垂直跳	サイドステップ	9m 3往復走	踏台昇降（5分間）
			cm	kg	cm	cm	cm		cm		kg		kg	30秒回	cm	cm	cm	点	秒	指数
1	深谷女子	埼玉	1609	55.2	81.4	2026	17.2	17.2	19.4	19.2	37.2	32.1	844	15.9	16.9	62.7	49.9	45.7	15.0	89.8
2	大分東	大分	1586	56.4	84.1	2006	17.3	17.3	20.2	20.2	34.5	32.1	1054	13.0	17.0	59.4	51.5	45.1	14.8	92.3
3	涌谷	宮城	1595	58.7	85.3	2000	17.3	17.3	18.6	18.7	37.7	33.9	941	13.0	18.1	58.1	53.6	40.0	15.2	90.9
4	山陽女子	広島	1590	57.7	86.6	1997	17.1	17.1	19.3	19.3	36.4	32.3	1043	15.3	18.2	62.4	51.9	48.0	14.8	85.7
5	高水	山口	1580	55.6	83.6	1984	16.7	16.7	19.8	19.3	33.9	31.4	917	12.6	17.6	62.2	48.3	44.3	15.0	81.9
6	[illegible]	愛知	1574	51.6	79.7	1964	16.7	16.7	18.6	18.5	35.1	29.9	884	13.6	15.0	60.1	47.8	41.4	15.9	98.7
7	市邨学園	愛知	1602	54.8	82.2	2056	17.4	17.4	19.6	19.1	37.3	30.8	934	12.6	13.7	58.1	45.2	40.4	15.5	91.4
8	佐世保商	長崎	1614	58.4	83.6	1996	16.7	16.7	19.5	19.1	33.9	32.4	1020	15.4	20.4	61.9	49.9	47.1	14.7	87.6
9	大谷	大阪	1580	52.9	82.3	1983	17.0	17.0	18.9	18.8	32.2	28.8	843	14.3	17.6	57.4	45.1	44.9	15.0	76.7
10	桜水商	東京	1567	51.1	82.7	1969	17.2	17.1	18.8	18.6	32.8	28.2	821	14.4	17.1	55.0	47.1	42.5	15.3	99.7
11	秋田和洋	秋田	1565	53.0	83.5	1987	16.9	16.6	18.7	18.7	33.5	30.3	866	14.7	16.3	59.7	47.5	42.3	14.6	90.4
12	第五商	東京	1569	51.3	81.1	1974	17.1	17.1	18.5	18.4	31.9	29.6	934	12.1	16.5	59.7	44.5	40.0	15.5	86.5
S47	平均値		1586	54.7	83.0	1994	17.0	17.0	19.2	19.0	34.7	31.0	925	13.9	17.1	59.8	48.6	43.6	15.1	89.2
	標準偏差		4.9	5.5	3.7	71	0.7	0.8	1.2	1.2	4.5	3.9	171	1.7	4.2	5.8	5.6	3.6	0.5	10.3
S46	平均値		15910	55.54	83.00	19965	16.77	16.80	18.57	18.45	35.16	32.08	10186	13.41	17.90	63.10	47.76	41.97	14.85	95.02
	標準偏差		469	5.82	3.51	739	0.92	0.97	1.14	1.10	4.18	3.80	1502	1.32	5.25	5.99	5.10	4.24	0.62	14.06
S45	平均値		15814	53.59	82.45	19861	17.59	17.65	19.09	18.90	32.26	29.05	10979	13.33	16.79	59.68	49.60	42.85	14.99	83.48
	標準偏差		451	5.37	3.46	681	0.80	0.92	0.98	1.03	4.83	4.25	1504	1.98	5.15	5.81	5.03	3.51	0.50	9.70
S44	平均値		1587	54.5	—	1999	16.4	16.6	18.3	18.4	34.4	31.3	892	13.8	17.11	59.4	48.5	42.1	15.0	89.4
	標準偏差		458	4.89	—	715	0.86	0.84	1.05	0.97	4.38	4.26	1270	1.55	4.26	5.65	5.21	2.51	0.49	9.57
S43	平均値		1592	55.0	—	2007	17.1	17.1	18.8	18.8	28.9	26.0	1039	12.9	16.1	59.7	47.8	41.1	15.4	96.5
	標準偏差		441	4.92	—	673	0.37	0.96	1.03	1.02	4.22	4.31	1850	1.36	3.72	5.30	5.69	2.40	0.47	14.24

NHK杯大会の審判員をつとめて・光島磯雄

第20回NHK杯大会（6月22～24日・大阪）開始に先立ち、審判員10名はこの大会の吹笛が今後の基準となるべき水準を示すことが出来るよう全力をつくすとの結論を確認した。

あらかじめおことわりするが、我々審判員一同は、本大会の吹笛がすべての点に満足な状態であったとは絶対に考えていない。ただ「審判としては、ルールブックにのって通すべき筋は必らず通す」という基本姿勢の確立を理解していただく意味でこの文をつづるものであり、審判部の「思想」を各位に周知していただきたいという願望がこめられていることも御賢察ねがいたいと思う。

①各種スローを行なう際の位置（ポイント）の厳守、特にゴール前のフリースローのときの位置はセンターレフリーが正しく指示する。

②選手交替場所の厳守、サイドライン中央から3メートルの自コート側から、必らず退出する選手が出おわってから入場する選手が入るようにする。ちょっとの間であっても、コート内に8人のプレヤーが居る状態をおこさないようにしなければならない。

③みだりにサイドラインの外に出て、汗をふいたり、手になにかをつけたり、ベンチの指示をうけに行ったりしないようにねがいたい。

④フリースローの際、「3メートル」を連呼して相手をけん制しレフリーに対して催促がましく言うことは好ましくない。ただし、この場合レフリーは位置を正しくとるように勧告することは当然である。

⑤反則を奨励、賞讃するような言動はひかえてほしい。たとえば、速攻で走る選手を追う選手に対して「反則でとめろ!!」などと言ったり、もしそれが成功したときはほめたたえたりするなど。

⑥故意に、意図的に、又は明らかにハンドボールの理念に反する反則行為に対しては、たとえば両腕で羽交締めに抱きついて妨害する、突きとばす、首に腕がまきつくなどの行為には、レフリーはルールに従って勇敢かつ果断に無警告で「退場」を吹笛する。ゴールエリア付近の攻防に特に多くみられることを思い出されるであろう。

⑦「規則14―2」に明記されてあるとおり、7メートルスローの際、軸足がボールより早くはなれたり、7メートルラインを踏切ったりしないよう、ルールブックの文言通りに投げることを確認実行してもらいたい。近年この点に関して、審判部がルーズであったことを我々は大いに反省している。私の記憶では、一九六一年最初に世界選手権大会へ出場した選手が、帰国後ポイントオーバーを軽視する投げ方を流行させ、しかも審判部が適切な反応を示さなかったことが大きな原因と思っている。

⑧「警告」「退場」の吹笛があったとき、その選手は、内心不満でも、何らかの態度又は動作により「了承」の意をあらわすようにしてもらいたい。

⑨相手に対する動作の結果が、突きたおしてしまうような状態になったときは、自発的に相手を助けおこしてやり、あわせて「陳謝」の意をあらわす配慮も示してほしい。⑧と⑨は要するにフェアプレーの精神を表現することといえる。

以上列挙した事柄は「何をいまさらわかり切ったことを……」と思われる向きもあろうが「きれいなハンドボール」を愛好し、「ラフプレー」と「ハードプレー」の明確な区別という見地から、はなはだ硬い表現で恐縮ではあるが、今後是非共実行してもらいたいと考えるのである。

国際試合では、世界選手権では、オリンピックは、などというのはしばらく棚上げにしていただきたい。なぜならば、今、IHFにおいても、欧州各国においても、現状のようなハンドボールに危機感を持つ者は決して少ない数ではないからである。反則の多い方が粗暴プレーの多いチームが常に有利であって良いものであろうか!!

今まで選手各位の精進にくらべて審判員のそれが充分でないとの批判は、従来何度か指摘されたことである。しかし、今後審判部は鋭意より一層の努力研さんにはげむことを約束するであろう。そして、矛盾不合理はIHF技術委員会に対し、積極的に検討改善要請を行なうべきであると考えられる。

選手各位におかれては、ルールを悪用することなく、その枠内で最高最善のプレーを追求体現されんことを心から希望してやまない。（日本協会常務理事、大阪協会審判部長＝写真も筆者撮影）

クリーンなプレーがハンドボールの発展につながる。大洋一重機戦，米(大洋)左右両刀の妙技みせる

【訂正】本誌前号24頁、全日本高校選手権長野県男子代表・屋代高の出場回数は「11年ぶり5度目」のまちがいでした。同校が屋代東―屋代と校名変更したことに気ずかず誤ったものです。お詫びして訂正します。

三菱レ大竹 7度目の栄冠飾る

各地の記録

第18回中国一般男子選手権は7月7・8日の両日広島・呉市体育館に16チームが参加して行われた。

前年優勝の下関中央工OB（山口）が準々決勝で伏兵の岡山教員に敗れる波乱などがあったが、日本実業団リーグ参加の三菱レイヨン大竹と日新製鋼呉（いずれも広島）の対戦（＝準決勝）で勝った三菱レ大竹が、決勝でも9点をたたき出した大江の活躍で岡山教員に快勝、4年ぶり7度目の栄冠を手にした。広島代表の優勝は2年ぶり13度目。

この大会と併せて開かれた第1回中国一般女子は5チームが参加、広島一女商OBが勝った。

▽1回戦

岡山教員（岡山）17（11－7 6－4）11 境港市役所（鳥取）

倉商OB（岡山）16（9－8 7－7）15 広島県教職員（広島）

下関中央工OB（山口） 不戦勝 修道ク（広島）

武田薬品光（山口）14（10－6 4－6）12 日本鋼管福山（広島）

日新製鋼呉（広島）40（21－8 19－4）12 米子高専（鳥取）

三井石油化学（山口）22（10－8 12－9）17 児島柏会（岡山）

宇部工専（山口）16（10－6 6－5）11 岡山大（岡山）

三菱レ大竹（広島）32（15－7 17－6）13 米子HC（鳥取）

▽準々決勝

三菱レ大竹 28（13－7 15－4）11 宇部工専

岡山教員 17（10－8 7－6）14 下関中央工OB

武田薬品光 25（14－6 11－7）13 倉商OB

日新製鋼呉 24（10－4 14－4）8 三井石油化学

▽準決勝

岡山教員 16（7－5 9－7）12 武田薬品光

三菱レ大竹 15（9－3 6－5）8 日新製鋼呉

▽決勝

三菱レ大竹 17（10－6 7－5）11 岡山教員

▼第1回中国一般女子選手権

▽1回戦（1試合）

広島一女商OG（広島）12（5－9 7－2）11 徳山高OG（山口）

▽準決勝

広島一女商OG 14（7－3 7－4）7 岡山ク（岡山）

山陽女OG（広島）7（3－1 4－4）5 高水ク（山口）

▽決勝

広島一女商OG 6（3－1 3－2）3 山陽女OG

鹿児島教員に初の栄冠

第9回九州選手権大会は6月16・17の両日、熊本商高体育館で第2回九州女子クラブ大会と併行して開かれた。

13チームが参加した男子は有力とみられた佐世保（長崎）、鹿屋（鹿児島）の海上自衛隊勢が序盤で姿を消し、例年どおり教員勢が上位へ進出、鹿児島教員×熊本教員の決勝から、鹿児島が作秋の国体優勝の面目を保ち初優勝した。

鹿児島代表の優勝は初めてである。4チームによる女子（クラブ）は鹿児島クが健斗の沖縄クを後半つきはなして2年ぶり2度目の栄冠に輝やいた。

▽1回戦

熊城会（熊本）23（15－8 8－12）20 宮崎ク（宮崎）

熊本教員 34（14－14 20－8）22 全那覇（沖縄）

海上鹿屋（鹿児島）22（14－7 8－8）15 西南ク（福岡）

福岡教員 25（12－12 13－8）20 海上佐世保（長崎）

本渡ク（熊本）33（15－9 18－10）19 宮崎教員

▽準々決勝

熊本教員 36（15－14 21－14）28 海上鹿屋

熊本ク 24（11－11 13－10）21 福岡教員

鹿児島教員 29（12－13 17－4）17 本渡ク

大分教員 27（13－10 9－12：4－3 1－0）25 熊城会

▽準決勝

熊本教員 33（15－9 18－5）14 大分教員

鹿児島教員 24（13－10 11－8）18 熊本ク

▽決勝

鹿児島教員 25（17－13 8－6）19 熊本教員

▽女子クラブ大会・準決勝

鹿児島ク 11（5－1 6－2）3 佐賀選抜

沖縄ク 20（12－4 8－4）8 熊本女ク

▽同3位決定戦

佐賀選抜 21（12－5 9－8）13 熊本女ク

▽同決勝

鹿児島ク 13（8－5 5－4）9 沖縄ク

男子は一般、高校とも氷見

▼第20回北陸3県総合競技大会ハンドボール競技（6月10日金沢）

▽一般男子

福井教員 26（15－9 11－13）22 金沢市役所（石川）

氷見ク（富山）37（19－10 18－6）16 福井教員

氷見ク 23（12－9 11－7）16 金沢市役所

【順位】①氷見ク②福井教員③金沢市役所

▽同女子

全福井 15（10－3 5－7）10 全富山

小松ク（石川）14（6－4 8－5）9 全富山

全福井 11（7－4 4－4）8 小松ク

【順位】①全福井②小松ク③全富山

▽高校男子

北陸（福井）13（6－6 7－6）12 泉ケ丘（石川）

氷見（富山）8（5－4 3－3）7 北陸

氷見 25（14－11 11－5）16 泉ケ丘

【順位】①氷見②北陸③泉ケ丘

▽同女子

福井商（福井）9（6－6 3－3）9 有磯（富山）

小松市女（石川）13（8－2 5－3）5 有磯

小松市女 19（9－0 10－0）0 福井商

【順位】①小松市女②福井商③有磯

女子で島原勢強し

▼長崎県総合体育大会ハンドボール競技（6月・長崎工）

▽一般男子決勝リーグ

佐世保 18－13 大村

佐世保 14－6 長崎

長崎 16－12 大村

【順位】①佐世保②長崎③大村

▽同女子決勝リーグ

島原 10－4 長崎

佐世保 8－6 長崎

島原 9－5 佐世保

【順位】①島原②佐世保③長崎

▽高校女子決勝リーグ

佐世保女 7－6 佐世保商

島原農 10－2 佐世保北

佐世保女 4－1 佐世保北

島原農 7－4 佐世保商

島原農 15－1 佐世保女

佐世保商 4－3 佐世保北

【順位】①島原農②佐世保女③佐世保商④佐世保北

（注）高校男子は記録未着

岐阜で初の実業団選手権

▼第1回岐阜県実業団選手権（5月・岐阜県民体育館）＝男子のみ

▽1回戦（2試合）
日本耐酸壜 17—14 太洋紡
帝人製機 26—9 太平洋工業

▽準決勝
二和家具 23—11 日本耐酸壜
サンヨー電機 18—15 帝人製機

▽3位決定戦
日本耐酸壜 17—11 帝人製機

▽決勝
二和家具 26（12—2、14—8）10 サンヨー電機

男子で小倉西辛勝

▼福岡県高校選手権（5月・小倉西高）

▽男子準々決勝
若松 20—7 東海
西南 13—9 福岡工
小倉西 15—11 宗像
久留米工 17—8 門司

▽同準決勝
小倉西 11—8 久留米工
西南 9—6 若松

▽同位決定戦
久留米工 13—10 若松

▽同決勝
小倉西 16（8—3、8—12）15 西南

▽女子1回戦（3試合）
筑紫女 12—0 筑紫中
古賀 9—4 福岡女商
明善 棄権 東海

▽同準決勝
筑紫女 9—2 福岡女
古賀 6—2 明善

▽同3位決定戦
福岡女 7—6 明善

▽同決勝
筑紫女 6（3—1、3—1）2 古賀

投書欄　明日への提言

大会運営に一工夫を

国内トップの4チームによる6月末のNHK杯大会はたいへん面白いゲームがつづき、同行した友人と上位チームの充実、多数化は「日本リーグ」に踏み切れるのではないか、と話したほどでした。

ところで、そうした技術面でのレベルアップに引きかえ、大会運営はなにか細々としている感じでした。

一つにはハンドボールファンというのは、他のスポーツに比べておとなしすぎるからです。せめてスローオフの時には拍手がわき、声援の一つもとぶと場内のムードはいちだんと盛りあがるでしょうし、そうしたリードを場内放送で〃演出〃する必要もあると思います。場内説明がないため、男子の決勝で大同が二人の退場を出したもっともスリリングな場面も「いったい、何分間の退場なのか」すぐには判らなかったのです。

有料試合は必ず場内放送をするよう日本協会が義務づけたらいかがですか。

また、プログラムにこれまでの優勝チーム名が掲載されていなかったのも不親切でした。

【京都・伏見一郎】

熊本商大、激戦の首位

▼熊本県一般男子春季リーグ（6月・熊本）

▽1部
熊本トヨタ 22—16 菊農OB
熊本商大 22—10 熊城会
熊本教員 26—25 熊本ク
熊城会 19—15 熊本ク
熊本商大 13（分）13 熊本トヨタ
熊本教員 37—19 菊農OB
熊本商大 25—18 菊農OB
熊城会 24—19 熊本教員
熊本ク 23—22 熊本トヨタ
熊本教員 20—17 熊本トヨタ
熊城会 28—18 菊農OB
熊本ク 25—15 熊本商大
熊本商大 17—15 熊本教員
熊本ク 50—25 菊農OB
（編集部注・両チームの合計得点75は記録的なもの）
熊本トヨタ 24—13 熊城会

【順位】①熊本商大3勝1分1敗②熊本ク・熊本教員・熊城会3勝2敗⑤熊本トヨタ2勝1分2敗⑥菊農OB5敗

【2部順位】①本渡ク6勝②熊本大・水俣ク4勝1分1敗④熊本工大3勝3敗⑤オール城南⑥鎮西OB⑦愛球ク

県内7強が好試合

▼第3回宮城県会長杯選抜大会（6月・仙台）＝男子のみ

▽Aグループ
東北学院大 16—15 仙台育英高
古川工OB 14（分）14 仙台育英高
東北学院大 17—16 古川工OB

▽Bグループ
東北大 16—12 古川工高
仙台ク 14—13 宮城教員
仙台ク 21—12 古川工高
宮城教員 17（分）17 東北大

中学大会記録

◇沖縄・第1回那覇地区大会（7月、那覇）参加、男7、女7

▽男子準決勝
仲西 14—9 首里
上山 25—3 古蔵

▽同決勝
仲西 14—7 上山

▽女子準決勝
安岡 10—0 首里
石田 10—6 古蔵

▽同決勝
石田 13—3 安岡

編集後記

□……嬉しい話から書こう。NHK杯大会の行われた大阪市中央体育館で、未知のかた4人に「機関誌をとりたいのです」と年間購読料を差し出された。初めての経験である。藤本編集長時代から、個人購読者数をこの雑誌の支持バロメーターとして考えていただけにありがたかった。僅かだが年毎に個人でとって下さるかたは増えている。官報的な、お役所的な嗅いがないでもない本誌を、ハンドボールへの愛情だけで買っていただく……。読者無視の一方通行かもしれないが、一人増え、一冊増すごとに編集スタッフは自信のようなものを感じてきている。

□……残念な話もある。109号（6月号）で公募した編集委員、締切りの7月末までまだ織日かあるがどうも〃カラ振り〃に終ってしまったようだ。この期日に限りません。いつでも御希望のかたは申し出て下さい。

もう一つ。全日本高校選手権予選記録、御報告いただけなかった県が今年も16を数えた。

「僕らの県の記録はなぜ出ないのですか」――ここ一、二ケ月こんな投書が何通か送られてくるだろう。「申訳けありません、編集部の不ゆきとどきです。来年は必ず……」。いちばん辛い返事をまた書かなくてはならない。（杉）

鍛えぬかれたフォームにこそ、
メカの真髄がある

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一一一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十八年七月二十五日印刷 昭和四十八年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価 二百円 (年間購読料 千八百円)